岐蘇

續膝栗毛初編

七

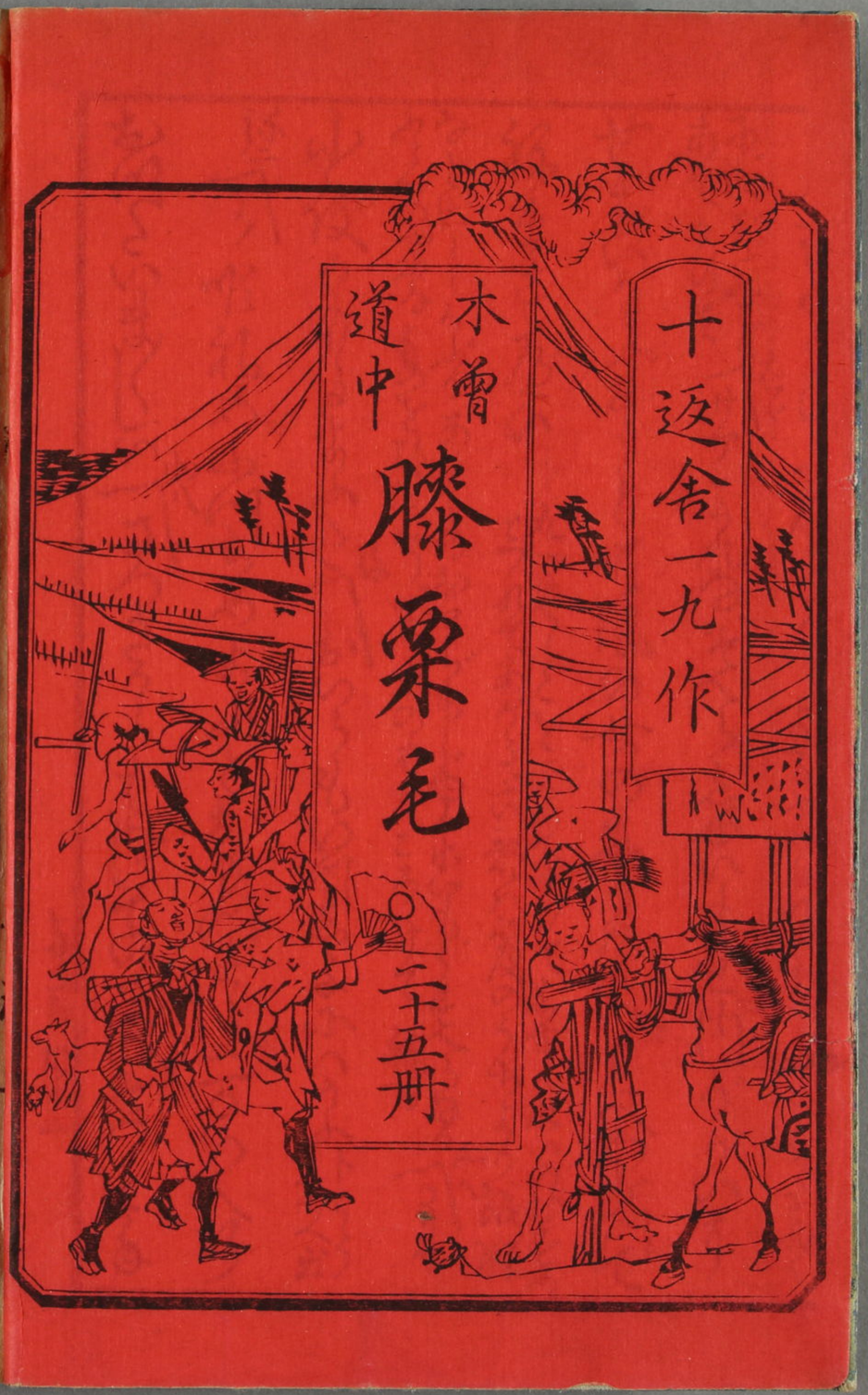
五日比羅參詣

宮尚老

和上

二

へ13
3759
1



金昆羅参詣

續膝栗毛初編序

三平

若年の頃摂陽浪速に居しが一と度高砂に行て乗船の序に象潟山水を尋ぬし善通寺弥谷を遊歴し北陸の奇景勝景の地を感情今ふ朝像きるふ慨次きれも膝栗毛七編八編ふ色と止ふ〜ひぐも出ふ

門 へ13
號 3759
巻 1

予が金昌性信仰のこゝに知るゝ故よ。せんて
千北里の中を編よ。投書。予彼地理。
行程のはゝまし八知得しゝれど。土人の通言。
九州の風俗よ深く。国稗まれども。再
三の世変を経ゝて竟よ此二巻を編
出せ三巻。終て蕃稗又曰。続ふ毒喩ん
ことを願ふ。ものいまの潤さる

毛もおもとゝ。蕃しよりてハ編ことゝ限至
一篇としゝ書と續稿を初編ゝ新ふ
ものしゝ彼が事称ふ保ふ世変
中て編ふ予曰。ハ婦の細の織ふ
遭ゝし時ゝと限ゝ事ゝ書べゝ。
生稗曰。ものの始有て終ふ。再中の

両士伊勢参宮ニ発途ス大阪ニ至リて。
その帰るに而なにはの龍頭鯨尾の光景ハ
しるす視者不快の説と雖ども
戦争の加ぢを編録と異なり出せる物へ
他ハ剣ハ槍者の古事稽古せざる
事と曲てくものハ無ぎるも又得失のきこゆ
ちれども漁ぢる投もるハいるみぐるて半次

皮義録序の記行と紛しき流ハ後ふその
標題を付くハるされど予が蟄才の筆
力ハろよ伝せを編而茶糟粕ハ書ハれど
陸束ハ只ハ識の為ハのこるものなる物ハ
見めハんも面目なきハ千ハ楚

文化
庚午春

東都逸民
十返舎一九誌

月琴譜

讃州金毘羅在鵜足郡
山形似象頭故名象頭
山相傳當山天狗名金
毘羅坊所之靈驗多
所崇亦甚嚴云
墨亭月麿画

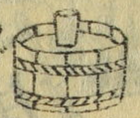
詣 加 金毘羅船

此書出入旅相長町のこれより多くの人道形場より要船のことを記すこと

[illegible] 金毘羅船の七ツ半過ぎ大川筋西横堀

長崎丸川口等所[illegible]船の下に次

也よ金毘羅船[illegible]云一切神頼の人[illegible]



神酒を奉るとて必ず酒を注ぎて海に手

清さたとして魚涙山ふのうらうらて乗船中ゆこれと

拾ふ人の神酒取難しとせしを吞珍るふきれ

ん[illegible]美味ちうしたるの酒の波清ふゆしをもはれら

故ちうなしされるも出れを[illegible]ひうてハみるみ

[illegible]少酒を注ぎて[illegible]と[illegible]

解虫 五十日 当山と海清の人[illegible]

三十五日 海蘭 三十日 いづれも[illegible]

川奥 蒜

[illegible]船中ゆ[illegible]昔より 金

毘羅信人の船ハ[illegible]

[illegible]

奉納

廣前ゆかくの繪馬[illegible]

[illegible]流海の船[illegible]九死一生の奇雑

[illegible]と拝ひ此海神ゆ術[illegible]ふ覚れ[illegible]

いと[illegible]数[illegible]と奉りて来代神[illegible]

[illegible]

右の条々は此書に用ふ事に作りしといへども金毘羅
参詣の人の為に図を施し毎編その編を大坂
川口より丸亀まで船中のことをあらはし夫より象頭
山および善通寺弥谷等の諸名所を経て多度
津より丸亀の宿までを終る所にて其余を除
備前牛窓にいたりて播州赤穂の事をも記す
二編のすゑに出しぬるものなり

金毘羅参詣 續膝栗毛初編 上巻

東武 十返舎一九著

抑讃岐国象頭山。金毘羅大権現と号し奉るは。霊験あらたなりまして。祭神未詳或云三輪大明神亦云素盞烏尊又云金山彦命 此日の本に是を信念渇仰せざるはなく。唐人も降神観といへる額をさゝげし。倭漢普通神力妙用のおん神なり。されば諸職の業に長ぜんと。縲紲のえにに入らば。祈る祈もかのましとみえるなり。脾倒れの

大坂
道頓堀
九亀
出船
の図

酒をすすめて。呑ませんとありしをも。皆めいめいに。或へ癒ふ所
のもとゝ為しをれ。儒仏のこと論ずるをも。ふれと怒りのめど。
あるへ私中の奇雑。まぬがれし報謝ありて。鬱ぶを切り
捧ぐ紙もさらに捧ぐと捧あへど。されどその塩ざるて取りて。
神罰を蒙るの。矢よりも早く。浜地蔵ちもとゝ。
山あるよ。ちゝぬ火のけく。雲井路の奥ふるよりも。海
陸の艱苦紙ものぎて。乗船帰伏るの絶ぎとゝや。
ちゝ孫次郎方。小八郎の。伊勢糸の刷毛つゝぎよ。

浪花長町より。遠留し。既に夜ほの明をすぎる所よ。
相宿より野州の人のよし。名八天平 偶り合せるが。金毘羅
参詣よりの。一人旅なんぴ仏ゆゝさとへをも
同道せんとゝるあぞ。女人ちいゝのるとへ。ちひなぐら
跡再合をしけまぐと。ゝるとの人吹て。その腹を
気づひな。ものも不足のるのあべ。償んとの約束を。
撰尺和のと彼花と。吹あへせ。ぎて三人打連。長町を
立出。九兵の和宿。道板橋の大黒屋とゝ。掛あんどう

とうつけて野良の人ハアちくとのサえひさもべいぺえ
ぴーさまくいぐ私ハこさるのーさまだやこいか　そんぐ
ハアぬかさっしゃりまーぺその後もどのふのひさもべぺー
どもハハアぺえんぴーさまへいぐのぐぷるちんサいくら
ほんぐーまもべん　なやどの　ハイおいくらぐるハ　三人
同志でぐざる　ハイおひとりまえ　私賃雑用とも拾ハ
ぐぐーぐさうまもこいな　あんぐちぺ　ソリャぐーこさるえん
どのーぺらくとおけさるーあ　イヤ　長ハ宝限でぐざう

おもとさるんぐざるのこもさよぐや　ハテこさいりんぐやぐざり
ませねこいな。私中といくのめ。日利次第で。何日の長
やこさまもえんこもあるさるん　そんぐアこうてもげちるいぺ
こちやァのぐざるのーハテおめ。宝限といやア
私方ハめんめ　ハあるわどぺんぴーさまんぐざァのぐざう
こぐいト　ハぐざうねこいぐぷるちんセ　モシ私ハぐざうぐのう
ぐもこね　濱へおりうえんセ。懺のの私ぐやぐんぐるぐ
ふぐるこいな。サアくさるはちんのふてぐんぐくト

ろとうらく。ぎまをふきうゆると。あかこどもはふくんちゃものがふうとめの
めのようとびいれると。ふゆやどの足せさうれうう。うてぐちまぐのるうびーう旅
人ぎまくうちうんぐぶんと　あるんど　サアく　あううきういのるじ
そのふねよのりうつる　さうう
ようどや。ぞうこうく　一ぞうとちんいうんういな。まづうくちゃん
ぢうく　上ん中　ふまんちぶまれぞあんだいちく　ぞうなふな
ちんサるいういチャ。コレそこの秋ぐちどめ。ぞうとそれ　あや　アニキ
ちやの秋ぐへついてぬざいんせ　みち　コリヤハア　あるうちまぼ
ぬどぎまうちぶべいト　人をまきりぐなうんへまうる。　ぞうちの人　エレハイ。ぐるうち
マタグ　ほうけきくハもなずくちるると
ものづぐまるうぶ。のり　あ　アグラ　祭合ざア。　ぞうぐいよけぐもちく　せどぐ
コハロ

ふヤア。ぱよせんぞうどん。秋ぐ　ハイ。ぢぐ　ぱるのごトア　りんどう　いんま
あうぐよぐるうぶのり　かあ　サアく　ぞいういな。ぞいなく　ぱうんせのん
初秋　ぞぎどや。コレハあるうぐぶれ　ぐぐ　ぞうぼうぐぐよ
なうぶぼ　ぞげんうぶりそれ　ぱるうれまぜ　トりあいづなを　とれてうね
ぞうぶうちもとぞんうぶれ
ぞれぞうくうるをまんを。　ぞんく　のんま　あんまアけんびぞ　ぞう
ぞれぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
の　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
きくん　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ
ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ　ぞうぞ

でめくなさる手ト 小八「ドレおらものぞいて見よふト 障子を引あけ
さつきから雨がふりだして
あんのこつた。雨がふりやアしめたもんだ。まアあてる
めでたるかつさが、こねつ雨のかみにかゝるかんかちだ。ドウも
りくねくきめつく 休次「どうぞうそ絞つくぜ。今がくる室
ざらけでおさめのど。ナニあるめのクト 障子をあけてのぞく 小八「アレ
ふるごろふ。おいらが額へびつしよりとねまさふさ 休次「ゞ
ナニ気なものか。尻を見ろ 小八「ホンニナアそれでもおかし
が数よかつさのへるんで 休次「ふ何か。アレ風上で小便して
ありがたい。ふめの額へ。そのしづくがかゝるのだト いはれて小八おもひ
それから此松中の旅人、みなかゞみてせうべんしてゐる。小八ハくさきものゝ
そのせうべんがこれにかゝるなれバ、ふちかまちをとく
休次「さて此へとおりめ。なぜ人のはなく小便しるさやアがつて
ト大きな声をあげてどなれど、もふはるか「イゝめへましいのでの
其後の中へ ... 八りゆおつてある
イヤきさまがわるいト 此方ハ ... その人のの合 ... 「何を
しらねへかまんべいト その ... 人をおかしがる ... 「コリヤてん
色んもないことを。そんなめつけいもないめをするかト 小八がつらを
つゐてるふをふりまわせば、小八又むしやぶりつき ... あし
... のこの ... 何ゆへ ...

「何ちよさんとやらまつぴそしてもやあるつぴけぶるくさん」

「ホンニハア」ひなくさんく「ツリとく」江戸元の面相わう

けぶるぶ子ヤ「イヤ」こりやもうんぶごろつぶ小八合羽ぶのくらぁ。

「ドレくトきもをつぶ」「ヲ」ぶをぶごろつまめくよ。かとめくと

いつさよ。ろくるぶ上ぶねくぶつちくとさつぷいめくまつの

男ぶト大きよふさぶかくと合羽をひつとり。けあをとらめ。そよふえて

きる。このさときみくどめのうんぶ。それうりよちまい。大ぜいの中で

きつさハのかりきしくぶあつわれ。あらげりうえつそあるのり合

ぶるくこうくとこらふ。ぶ。ぶらもあ。ぶ。ぶらもぶ

火のやうよあふろしふるいさろひろ

くとくとさく人合羽ふ焼ぶまくふ

ひ一貫よ。紅中いよく大ぶらひとりふるふ。ぶなく

紅ぶよ。赤ぶ水川ぶ日ぶれば。夜も子の刻ぶ斗よりぬ

ぶよ風待ぶと夜明ぶるのべ。ぶ。ぶ出ぶうと。紅ぶ水子もあぶら

く。休息いたふよ。紅中もひとそまつ。おのぶさまぶくりうと

のふく。居眠るもあり。ある人肘まくら。ある人荷物包やうの

あのふ。ぶ。ぶ。ぶを打ふるろ。ぶく寅の刻ぶあやめふん

とあり人ぶ。紅ぶ子ぶも。ぶ。ぶ騒立て。帆柱ぶくとく。

帆綱ひきあげるゞて。今や沖より来生んとする事なり。
私中ゝなく用とさせず。あるゞてる顔さ生し。手あ
はらひて。象潟山のかゝ飛ふ出むむ。彼方北八面望
遠眺して

ゝゝつゞゝゝ俗の言葉なるべく
ゝゝはふゝねこのちんぴらの私
知ゞ。私出をとゞき。彼是うちかるうちゝゝ
沖よりもり出。私沈がョウリの奇いきすく。追風

ふ帆ゝげゝ矢を射るゞゝ。ゝ日の出るゝ比ゝ。無度の
沖あゞいうるゝ丈坂ゝうゝの所まで十重ゝふて四方を見ゝとせば。
京のゝ京はゞ。甲山麿耶山。丹生の山。ゝゝが峯
ゝんど用前よあゞゝゝゝ

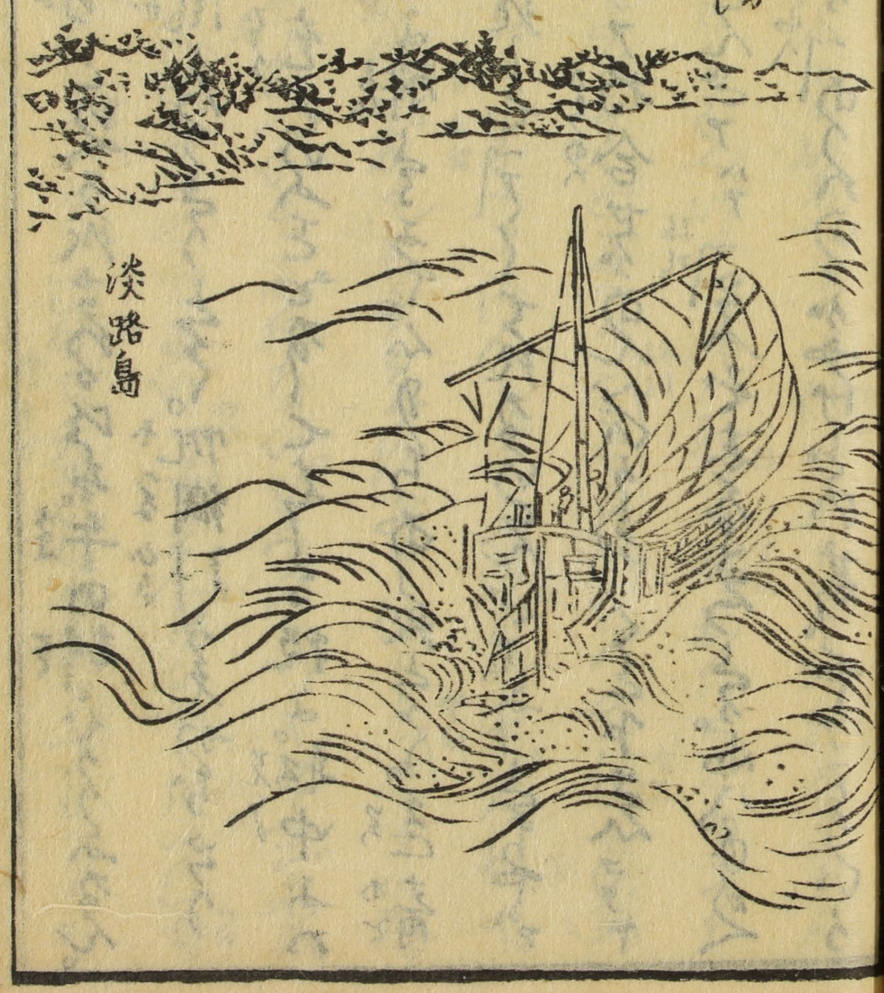
仙人のゝゝゝゝど震ゝゝ
吐いゞゝゝゝれゝゝゝゝが
又陸地あゝ西の宮。祇園。神戸。須磨。なんどいふ浦〳〵
里〳〵ゝゝとされて。眺望の景久いふだゝゝゝ。和田の

播磨
舞子濱

紫舟庵
一雙

淡路島

初音樓
一炷



岬ぐらを磯といふ。午の刻だろうふるん。
けとれ俄ふ風ろうろうとそく。帆綱引えんかぐろう
るを。まつ切をといふをするてんする程よ。私中ふい
ーぐ列の人私よ辞しるまや。ふのちあれとく。色青
ざめそちやれしてアくくてれかのいちんどア。ふしとやハア
あんでも菜サア拘合せがめんべいうぷちくとやえんコリヤ
ハア。あそぐんらんどアハア。そんぞもるろうろ。心八ふめく
そろうハねくうアあうへのるがもけどの菜ぐやアろういう

アそんどとといのモヒあんぐどアかぞこそろうハおるそうん
うアーあんぜまそんぐいうコリヤナ。私よ辞おろどもあハ
そろるのん菜ぐねぐぷよくどざるうアさろねくとろそかえといふ
菜ぐね。アロ。げせるナアけんそがくべいとろて。大坂で
ナア。ろうてきあろぐぷあんちうそぐれどアむーぐコリヤハア。
うらアうちねべいもれるのいぜろるのくぐそぞハ
さそのこのふこいぐぷうてやさいアそえんどおぐ紙いひ付
るの。ソレとろうくアくなげちるひらんどア。ろうまろうろ

頬 死 喜世留 列 少 死 列 惜ナイ

が。湯サアかへつてゆきな〽サイく モシ弘法さん。湯
がひとつのひとつの〽ちんちうかんを。おれやよくくが
あらためてよありがたいなア子ヤ。おまへいさちの命より身が叶つて
弘法がいもつのハ子ヤ〽ホンニコリヤどうでも弘法が白さ
ぶる〽あらい風じや。せんどうさん。コリヤぶじの御〽
まもりくられ。金毘羅さんノウ。信心さんせ。コレナ和佐
そのつより帆ノウさげんなど〽ヤイコリヤ帆綱ノウたぐ
さるの。サアく親方。コリヤくだらがどもなめらかならト せんどうはまつてくる

かうしてそろく風いもつてふねへよせ。それよりみなもそろく小山の
ごとき大なみをおつくらせの中へうかむ。おふねのり合もなくむちうにて
まはりてきまりのまん中をはなれもひとつふねふつちやうしやと。そのふね
のさるさまをあげくおのくいれたるうちいろく。ほうら小八も。ゆるめうり
あふいもじめそつらけいろよろへそうろく之中
〽コリヤめよ小八。ちくれのねく。やでどうぞ
おやうハおのきんらう〽どうといつても南無くさん。あら
さふまく。どうぞおとうちけなされて〽リレく ろうさうてる。
好物な酒を一生のべまちをまいおくさそけなされて
下さりませ。南無さん。ゆらちうかく〽ヤアウイくうら。アコリヤ
すみおうじやう志ませ。アくせつないさ死へいざまん

べい。おしさつやア。あとからごされ　弥次〽エてあとからいつて
たまるものか。なんだかいとをいふ。おまへ邑ドやアしまいて
うるめへ。北八しめへ〳〵ひよつとしたらつくなのら。あれがかざ
よ。伊勢音頭。鉦太鼓下手な和に喜ばし拾がある。あれをごらじ
てきさうし　北八〽ワリヤアめりがてくが。それよりかおめへ言語道
あるおかみさんとあの布子をおまへさんねへな　弥次〽ヤあれ
かならず見へおれが太るのいつてうらぶ　北八〽ナニいまちね
ものが。せらきぬもあつしい　弥次〽ヤアそんなうらするぞ。

おかげをの大山不動明王さめうてうらいく。イヤあり
がたへ。向ふへ来るへ悦よ助けがおぼろう。ヲイ〳〵　北八〽ヲイ〳〵イ
ヲイ〳〵。よびかけがね〳〵ト是へとうらしくよびかけけれど見かけて小舟一艘よ六丁のろをおして
こぎ来るハ大坂より下の世話などへ向く。そうたきようせのふねなりかかる
時節ものうきのころど。けうきさくんのちんどうどもむかふ大汗ながし
〽ヲツテウ。ヨウソロ　ヲツテウ。ヨウソロ〳〵　弥次〽ヲイ〳〵。よのまかん
よのふね〳〵　北八〽ヲイ〳〵。ぞよぞよんけてやされよのまつちく。
こんなふね〳〵ト あふぎをあふらせながらよくどめ。ひつとうみ見当
もせぞかり合てハおそくなるもべいさいのきかなさう
まうとをいで　弥次〽エてしあへまいのやうよ。コリヤめよ北八。いくら
むく

ハねくぞ。こんなうるさくしてもあるくワアイくとあるくがねく。
三里までの事ぞろう。ワアイくトあるきてゆくときろは
祈よのことむせうよくをかけのおりしも風やまぐやみ
山谷をうつてゆくつーまよいりかうるがあるうて。鞍くけど。家高うんどりくる。後ぐのえあるた。
室の津より一里半もまくあるく。山あるうをぐて。
怪巖青石どもおかく。風糸雑よえ面あれど。かれ
雑沢よ。おのくあ打ゑうしが。新て平山のうえよ。
蛇鏡堂のえあるを。おまとを宝の湊ありと。私中
おのく蘇生ちる心地して。ぐるりよ寄ちるをとがきあの。
私ぢ子もいきをちて。息つだあくど。湊口ふぞ
入ーりうる。大坂より山陽三十里 義あをくるくあるくひ口をだ
て。象ぢ山のかをあげをまつる。夜ふ入れば。
私ぢども。ちんをうり。そうかつけるうち。
ふるくい。野列のみを平がふーあるをあをりさ。
隈コウぞよぐ私ぐつい。サアちちとおきろもくトあるせ
どちうーこのをーぞぐとうれがくれのいろろはあ
もひへくまりていろのまろわてとをきをるをのよおどろき

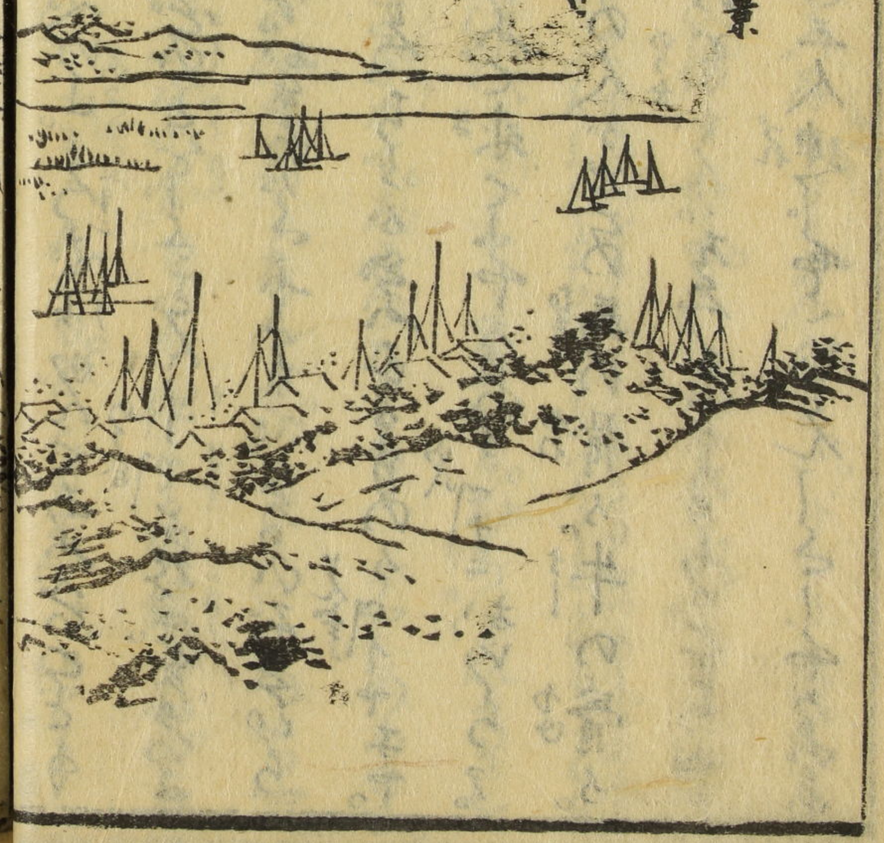
弥次「ヤアコリヤきんざそのな 北八「ナニえんざござ。ドレ〳〵おんな
いろのまつ出ぷてこねられさ。大へんなきぶ。コリヤおぞさ
わんぶろうト ころ〳〵えさがけば のり合こちらをつゝくしいまさう きもりよろしくうちうちいゝくと匂ひがもれ
どもいろ〳〵よくさがすけれど なんどうどもおさまらぬ「コリヤしまがる。おそれんるが（ワルイ）を
しるまんの のり合「ハテさざめて。おゆつなくらさじやあるのよ。
いんまのさろぞそれもおつかんざいとしいころちや。
こまいよひとつ祝よ。気合（のりあい）せるも他生（たしやう）の縁（えん）じやござる
ゑこうしてやんせ あちこちの人「コノおとも。まどもおや。ア。女房「ほんにまん
やぶれつ子もあんべいよ。ようわずらいもんで（ひさうがり）あかぶそこども
あのをなくなつた。めぢらを（ムゴイ）をそさきんし のり合「こなたよこちのよ
しそもおけんまいな。お牛がさふころで。こちのいぞこむら
ふそせうんせ 弥次「ナニこれちらがござるものか 北「イヤ子や。
ゑどの衆が（しれ）たんのみて来（き）てもやるのつ 北「ナニおいらア。
わんの道（みち）つまでこの人がどこの馬（うま）の骨か。牛（うし）の骨か。
おりもし旅人ものを のり合「サイノ。こつまらなうつ。こちゃ
きつとんが。おゝ中いかく三人連（づれ）でおさいらんしくさしやるある

播磨國寄風景

帆はしの雅そ
きくそろ
そろ
そろ

みなの美沙

喜多川
哥麿



紙子
朝山
いさう村
榮邑堂
邑二

なぜ佛ぞうのと。それおいそもさんせあや。私中そうぐ
のるんさぐや。ハテ。もつういそんるんさいの。仕来のも
ぐ形ぐあるぐや。懐中ものあるとあそんせんせト
うのえさ手ぐふろしきつつみこうたいれるどあるとあるよ仕来
のもぐさらしきりのうえそもくにうだうれいこあまうあるおもう
の合 コリヤ手形ぐるのふてもつうぃ。ちぐが。私さんあるやぐふ
るのとるろぐいな。ぐふとるとておいうがちるのう。
コリヤア。この私よのせくまくうとうぃぜんぐうどの
うけしまうりぐ。ぐふとも勝手よるぐいて

るそぐうひれ。ぐや。るのんう。私が業へいろいろぬくく
の合 コリヤ おまいぐがもりぐや。るいな。死なれと人が
ひうう。旅で。かり合のるん人るう。いやとも私ぐ
どのが。うおきせあやるんうれど。屋連よせん。
るんぐやあると。同屋の帳面よ。おまいがと三人
ぐまとつけさやつさぐやるんいな。それぐうで。
おいうだうかぐるアるつうるトめ
るうそうもとこのおまさいそぐのおうひひけ。ぐや
うやとぐうるうさんしきくのおうしき人やちきるう大き

みかるどうで こゑかけて 〽コリヤ〳〵まだあるよふすぢハ此ものをおどろき
て来おりうゆがふ生じたろ。あまつさへ不理屈(ふりくつ)
どもいふぐ。いかさまさんぞ。私中どもいさみさかづけ
さんがりや。コリヤ私共が。かつどもよ。この死人(しにん)ども。
かりふせて。かうけじや。コナ没落(ぼつらく)どもめが。ト この始終(おわり)
ふそぶりてのありよやうきしくいふなぞのゝ合ひまにくこれをあらためて。
法衣ノ御人にらくとうけをいひ。それがし是人をんるさうく。此ところ
くちふて手をよのミ。あるおんとうぶんし。せんどうよりこれにと
あんせて。まづく手をもの来られんと。めいらく。そうよ是人ハふねよう
抑(そも)此(この)室(むろ)の津(つ)ハ。西国(さいこく)諸候(しよこう)がたの。私(ふなで)出しある

ぶんしや。撥見一箇の繁昌の地(ち)なれバ。商家(しやうか)多き土(と)
地(ぢ)はその形(かたち)をなかくべて。ならびつゞけり。傾城(けいせい)小八(こはち)を
かゝへた寺(てら)あるなを。邪(じや)ねさがしてゆくりども。
小の町とい中ふとより右の方の横町(よこちやう)に入るにふ。
擲剣(ちやくけん)なん随来(ずいらい)が死なして。妓倒(ぎたふ)に三味(さみ)せん引(ひき)て
うちやせさけがへうちのエリうちのなんしよのあま。
両方(りやうほう)が巣(す)をうけ何といひてもえへづくぞと。さかづきを
が。さるよさん〳〵とりまくあさくまつるみあんとなく。一さん

えんそうあんとるの。おれたあうどうこうあうどう。車の
るるの輪ゆうど。さろさびろくとうあんきうん
ぐ。きうんぐうあん。ろくうくうあんとさくづるちへへ。
シッチョク ろんぐうそうぐうのあぐ。イヤ女房ぐ
そんな。そろいあろあれくぼ。ホンニ。ぐどもうひぐく
へ。チト ひゃーてやろう トちちうれてそとえあくう
ロのうち通ひ屋のくさをあけて若女どもさとぐよくくーづくりあて入
しゅうるんどいろてそうよくうげりまらーそぐえ法せんだをとき
てそうあくむうあうあとえくて大の男大じ屋のひろそをきとるが
ぐいをそうよあきを少女よはをひうれてうんあううのげいをとえけ

てヤヨ 国侍度の約 ちぐどもる。とやむぐうろつうども。
うんとるぐ。きほんをよるるりあまぐうりとえてやんぐの
ロンイー
ちんせ。三の松さ屋うろそ腰りつくろて。ぐくどやあろ。
ヨロロシイ
ろうどいとうちやトあげてやく。ぐくりれあくしく鼠ていうの若女や
大坂あと ええて コレイ十ぐうりるくうんくイヤそんるあどやるい。
くるるぐくナンノイナ 若びいるぐどぐ小八。ぐとをうり
あそんでいとあろうえんぐとぐ氏ぐ。私よ仏をおいく来
るぐうくイヤいとぐある。ぐのうと 私 おきざうとーく。

きるのくるまだいとくじんえんざ[少八]るよそんるるのう。えん[さ]賛やるるやうをおいて[き]まるものを[か]おうまさまをうハまぐ私よろいる。コーヒーおちゃひよえんじゃうでいるな[ぱ]おめくむひよいくるの。たやおけでゆうでいろてえんる[女]ぐ[ぐ]んぐういえでや[ぱ]イヤ[休]ぱまえ[ん]死ぐあるか。それでろちとうぁ。ちとうぐ私るものがあるてさ[ぱ]ぐまさぐねるるものえ。[ん]雑さんじゃいる[侍]イヤ[ち]お寿ぐあるう。そんがきてく[ぱ]おそらえんわぐんま私へいそ

どーてらいなとーおまえが和へ参るものへコリヤ大変なことをいーいんまよ戻ってどーやがあそいさんげらん。おてらさんよ。何を用かありまをくいなーー用といへばえーえ。おとりをそんとうてりまひてえのーーきちんやの。そのいるおてらいらのえーよ。法華寺といふがあるといるなーーナンダ。あうらいちのお市けまんぢうがあるまてアーサア。ほれさんいふーーあさけしいる花どやうるなトうどそうえもおるをまきちらをふうりはそれえうの山町をそうえのかるとあるあど寺をニりん

えーーあるまのさそうとさうそくいたりどどいどちうのかとそあれどーーハイちとあんいんれがみあるんどいうやあとどんぎうのかとそあれどーーハイちとあんやまよどうちうアー旅のあめでどさりかとぶ。おせうえ屋へおれがひがあるて来りかしーさーーるんどかうアーいまいえ元迎どーや。あとそりどんせをとあとそりあさうそとりいんーーイヤ明まどいかまれやせぬ。どうちうが友こちうぶ。死いーーかーーこうちう。それでおれをいかーーアーくるんどかう。義礼う。コリヤめでしいか。ぎんういたての住ぶ。入院いうされさ亦。入院さうど葬れが来るとん。

ろういなめでこいとへろの。今までの叶寺の檀那へ。
のこうぶ遊者でこれもく長命ア、ちよとこぶるの。不
仕合なこうちやとおりひあろこぶ。とれくの檀方こな
夭死しこ。孝繁昌の陽れ。おせうもさぞこうちげき
ちせう。孩ふてれ酒などあげさしこうこいな〻それい
ありがこふござりやちぶ。苦いいそぶじやこうちふぶ
あうこうも。孩うて葬れこのまお系いこやせう
〻イヤウリヤ。早速なこうちやぶ。施こざい。誰どのドヤ
〻ハイこうこうふこうやどざりやこ〻こるさんこちへぶを
じゃいな〻イヤこうちふァ名どのものでどざりやこぶ。
今昆羅系後よまいりやこさ。私の中でつまぶ一人。
てこれやこうこうそれでおまへおこのこヤのでどざり
やこ〻ハテこうやくけるぶの葬礼じやな。おしこの
こうふまこぶやぶ。猿の礼なこ性来のこ形ぶめるの
な〻イエこよ形ぶ。せね〻こ形ぶるふてへどんん
こうな〻ウリヤこまこうこさのぶ。りぶこをこをおおひ

ゆゑに、あんとうちや。そゆゑ、ゆゑなんじや。せうく
うれーうさうのと、ソリヤアいいおちうらおとこどざう
まうす。おそのどくな、小ばな拾そのあううう。おちかど隠
とうのもめづらしい。サア仮次さんあうぶねくやさうをと
そのとんとんとあとなかの寺をこちりそうくとんまうろ。ある拾へまし
なりとうるとうよどれいとのれうの数地とうべ
りんどうもうまあもあんたたぶのとうろうの六十あまりの十せどれさ
る信一人ぢうりよまうぶりあうるとうろへやまうあんどうとうろうて
仮ばいめんるのうとおせうさうまうくちとおねづひがどざりやう。
さびのりのどどざりやうとが。一人私中で病死いて

やうこそのあるうで。おとものひるうろ
ハアソリヤハ雑義であううどやあうろ。夏信ちうはいち面
寺の仮職でどざる。雨ちうまうくまうくあううら。葬礼
もいろうく直脱次者でどざる。徒ようむ信もうのの
のをうのめがそれどけよ施物も余芸よ生まうを。又
りんどううをふも。イヤあうう吉がよいの。或ハ歌ばうう
三めうやあうどが数ろを。でうのやとあまべば。芸ハ格別
言直でどざるが。信のもうう。なお好ハどざうねるが

それもありてろうござんせやせうが。そろく殘のいろね
ものよ。お經もするようなあんしようなさろてやうう
ます。ハテ亡者へうまんと。うむきいと。そんなとものの
くちひませね。てろくまつと。それそれが又そのやうよ
ちろくひようと。りそろとりのくうねやうよいそろぶ。
二三日まちろされ。ぞちの檀方よ死かろてある病人
かあるころん。それと一ものよ別食ぞさしやとといろ
下ばよあがうまと。イエく。そのかの仏がりちまん

ろんまろるいこのの。その亡者ちふと
ぜんかろ。ちと遠あそおいろ。二三日へ気きい
あろまいアリヤぞんともじやが。りんどんのけく泉
てきかござるこのを。イヤそれがねくうまどつか
やそそを。おのそをなろて。こどざるく。
ろるいよさんせ。私の方のまろてある家がるじやろ。
その問屋をろのんで。業こてい。家ころく。書
船きく本をそそじやと。いろそよそんらのとまん

じゅうこういなハイいろさまをまうみいて〜やせう。ノウ
ほんけんいづきまもうろしくおようをやせ。
さまうなういろてさんじーやせう　トせうくのようをいたろおちつきてを
ものとそこのちらのいりロのそとをみ。あとーせのようそけてあるをホハ
ほんけうさまやさてあとあけとそうとりけうげてをうくあくうかくと
ようてさんどうをようをるはせんじどうもうんホろくんやをきあを
やどうをいうていさいのをとをうろ。ほんけうホハをえを平のあんろいぶんと
あしいをやどうろのちくうけ会。去をを出しそせうやくきもるろとしさ
ろんべやがそろのとあはようじやをのをそをぐくのねのこをうをれてをうろけ。
ちうろうさんホおのしなのそこじてうろおさるつあうおそせんどうさきを
をうちんけちうろう。ほけうホハかあとさきをうろ。ちのまあはをうろく
をのをうをうをいうどうどろのハイおせうさまをプどうをと薬
ものをうをうどうをうをと

礼をいて上まをとおのれのめのあるさのでござうさん
ほんのほおなえをいじやな。ちろ〜周縁といのめの
ふーぞなのじや。は佛も。そうの寺へをそじや
をと。合点をとえへてぷんきのさき本堂の雨戸が。
ぐうとくくといのもうがをるとぞ。ぞうくをと板の
間を人のあのむやうなもとしとへぷりへさえへうをう
れをとえんえるこいなぷ平おせうさんぷんざをといの。
ろうちうアのようをぐおおいとまいて〜やせう。おとぞ

よろしくおたのみ申ます。おせう〽アヽコレ〳〵マア。沐浴(もくよく)しく。
あつちやへつきてまゐんせ　孫八〽十二サ仏(ほとけ)の迷(まよひ)玄(げん)で
ござり申すぞ。ゆるさんかせぢやぞよふござり申す　おせう〽イヤ
そぞろなるの。濁世(ぢよくせ)の垢(あか)を洗(あら)ひおとさん。佛(ほとけ)の
ふめじや。その釜(かま)よ湯(ゆ)もつるしてあるさうな。ちよと
あとへゑていそ。ゆるんしてござれ　せんぎう〽とくりの
らんじや。そふしてせゞんせ。サアく。その掴(ぎう)拔(ぢく)ノウ
はんぬのでゆるんせ。ゴうしが湯(ゆ)ノウらんでめてゐる
子ヤ　ト此内孫八へぜうことるりとはえだぐりとるの。戸板を取ゆるんをあぐりの木のゑにて数
くけ。あみ申うみんして仏(ほとけ)をねぶるなり。孫こう来ろくりと仏(ほとけ)のしぶさ
とうくんでゐる申や由をめちあるくとまそぞもく申すぞ夜由むぞふみのそ
まぐざふられバ。そよつくと風由身みしえ。おのあと申ろ
身のまぞくなり。ござるもえん申すがふくとふるひぶし　孫八〽ヲヽイ湯(ゆ)を
申くらんねく　せんぎう〽らちのあかねく。お是がらんでござる
孫八〽コリヤく。お是だろうござるぞめるござァいゑござ　孫八〽なんぞろ
うそをその言うりはそれはさうえお〳〵せうめが。せんぎう本当米く
亡者(まうじや)が来(き)てといやアがるをつおめひぶしらちめ
ゑくやよね。ドレゆをみろそござる　ト　いちめくさんよ仏出てゆく孫八もそろと為ひ

つぐのそうけいぶさんとんありひとうしぶ一ぢんてんあとこの子ぬ
さんせうするあがまんしそあもいれあとあそこをあげんとどさをぶ
とんぶうしそのるとかの赤のえぶまうけるぢちん風があのそきくて
ちまひまろやとるれがほかいろうぬうよあり。ふくぶ
しそきハとびあくうちどうやうのかとけがひとりでようぶ
るれがそうとだりまうのがせうくしあしんるはいくうの仏
むくくとうどきぶるへほかいまれまらぶきんといふてうをふる
ひあうしどのあんぶ牛ちのとるあへあきてうあるのトへ
んどもとあふんあまをそのあくうんぶうとひくあぶはうびうう
しそ「ワイく小ハヤアイく。ちあくあそうまヤアイくト
うあく更小ハとんどうがあけはあをれて「コリヤぶうく
ぶそるあうちおせうちうんをうさげてうまあ
ぶいるく「ちやくあそこまてべいうよ。今けれが

いきうく大きんぶをきううぶうをいへ
「イヤわんうよ。この死人めぶあがうぶいうとうとうて
えびのくまづうよ。ツイこのものこをふをぬいうぶ。
ぶがうろんぶうちまうねくぶ。おまぶが笑へぶひつきヤア
ぶうよ。！いてく「ソリヤ大ぶ犬ドヤあうぶそのる。
ドレく犬じやく。コレうんぜ。この子のうそうん屠
うそ亡者のあーぶあうてあるそれを犬めぶうう
ぶうくてひをあうとぶ。ぶるうんあとけがうぶく

春秋亭
仲任

とおりへ。さもつぶさんしてのやあろぞいな。はた
ゑんるのよ。ろちがあく。くいつい。犬めじやな。
いめくまつい。ツレそそふちく。せうめがト。ありあふりこそ
れハ。ヤキヤアンイトあびてやくめとハこそひとりとしくるんも
ねんごろよとれをゑこそしーありけもバあとのとりこそぐけだんしを
あまひだりつをあくあやくのとみそぶこれハもをあうーこそろ
りこよりせんどうりろもいこそぐるよのり合の人
びとハのこそぐおそびよあぐりこそあまふこりのこあねこのこりこ
ハけこおこさけこをこりこるこをこりこるこのこりこ
あふこよしここの夜ハねもやこのこあくる
死ぬりのハ爰ハ死んるれや生るくん

私ハ追風の富貴自在なれ

ゆく孩ひ直して。既ハ夜明けまバ。せんどうあるこ
ども私中をあくひこるふ。修験者をよび来るこ。
不淨ハけの祈禱をなり。翌日。軍の進風ハ
吼りけて。このこのとぐちを望りぐ。まるも伐船
の大多婦の沖ハ至りる 摂津室津の西まで五里 海中ハ。
小豆殖のんえしるよ
糸毛の実入もよりや小豆殖

しろくてうつくしきねるがごとくみえる
それより牛窓前といへるあうらをゆくなり。
八島の矢ぐりが嶽。角のごとくそばだつ。鷲之嶽
攻の小冨士まことにうるはしく。下津井の浦えん
ぜうり。海中あり服山石島などをぞところ
あるなり。小島あれども。京名佳羅いとうつくし。
その日申の刻ばかりとおりあひしさぬきの国丸亀
亀の川口あぶねぶうりうり室町此所出生
此里はうり

[illegible]宮へゆく津島よりねぶも
のりあひせきれ丸亀の船
はあり汐干よりあひて二丁ばかり沖のうふねを
あるて。澪汐せばうり此澪あさあるゆゑ
雖澪ありといりの者ゆゑ此せばやく川中ゆく
大ぶねよりうりはいり。大物ぶとゆる猿篠
上ゆゑ。是ハ私の宅のもの。案内ありて
ありのうち。たゞ[illegible]あん法のおしをし

よりうる。

續膝栗毛初編上之巻終

新潟市図書館

新潟市図書館

金昆羅参詣

續膝栗毛初編下之巻

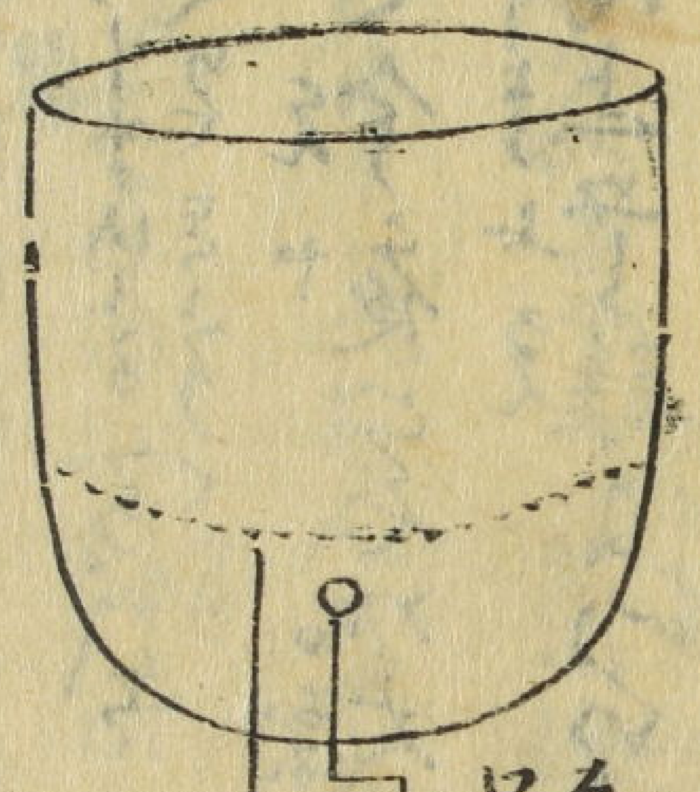
十返舍一九著

讃岐圓座の名は諸國よりもろぐりて。美も賈弘入津の一都會なれば。繁昌殊よいべくもあらぬ。町家は濱辺よりひて建つゞけ。旅籠屋なども多く。いづれも家居きらびやかなり。扨次第に南へ北へと弘法の素内よりはじまりて。大物あるといへども。女ども出向ひ

コレハよくお出なされ。サアまちかあがりなさんせ。

陸 アイ おせろよなり ト 上へあがる、このうちにんぎょうの
生るんがを おやらしいこと
終り 「私ぐらどのめぐらんろ。アノ子ヤ きのふより
昨日
の大あるのゼナア。」 「まぐつとじゃ あろナア 「サアどう
御天
なりせうとおもひまつさいな。それよりヤ。糸谷の
人が 私中で死る幸つてナア。お とろしいおろいこと
でのつさいなアコレおそるるヤ。おあさ 夜中 身が 豊も。
小盗食
小盗食 「サアお客さるなナア おくへ お出なさんせト 行つて
の大客
ぜ 「ハ ちょつと 「エイ 湯よおいりなさんせ
「ハ 「ハ次 「イヤ 中ぬ 先へいつて 「ハ 女中
風呂場ハどこぞの 「あちの 弘さへついてナア。ほんとと
お出なのさんせト あつちきさハいかよ入るよ モシ おめくよさて
わく ほうてんの女のうちをひらて
ちくとこがある。あそこまつてめ。そこきの女中いるんぞ
「女 「あれハまヤ。そのおこれんぞヤ。 「陸 ナニ おこれんぞ。
女房
コリヤこりゃ ねへおめくさるんぞ 「女 「コリヤナ おるどドヤ

陸「女ハ志まきとこそいへ。ときはねま
とひな　さへてゐるがいゝ、ゐるからにはぜひ。下女の手さかるまいとゞうりもの
あんまり早御なるのぶろ。おめへまゐとりおいがあれ。
きいて見ろ気がどうだ　女「ヲホヽヽ。おまいさんのことちや
おめのナアとおもふと　陸次「コリヤ有がてへ。ゴウ耳を出し
なヲレよりつくト　おりを　女「ヲホヽヽ。何ちふいゝてじや
ト　おりのさまは陸次をつめつてあげてゆく。陸次ハおもてゐまへよりかくしがけ。ふろをのぞきて　陸次「どふだ小八。ぬく
あがるねへ　小八「コレ〳〵陸次さんちよつと見ねへ。コノふろハおん
どろうト　又おもふ陸次ハ手ふるくみのてくみれバ。やまのうめをさらへ。
まよなきのうめを用ゐ。そうりはそしうへのかさ。三石四石やけはゝきさる
手のあまよりさせて。下ま板を敷く。京大坂などふぞうつ。ぬたうぶんと



いゝかのみひとつぼうしくいづう
あゝいかゞだしらんひとさんなの
人をそなよくありとかうことを
陸「かくしなるあどふいつはめづらしん　小八「かよわんな
風呂ふへとりをそわるかゝ。ひやうと又此雜をそうち
ぬいてくへるめへと外でめつていゝア。なんとうちせな
陸八「ナニかまうこたア　はくたちくって見ん世間　小八「そんなト

ちいろ〻。コリヤ 珊〻茶碗の 揮〻 とさてゐる 揮〻ゐる
いが生 ゐるが〻 土 夢ふ ちゐ〻ふといふりんざ 八 ヲいめ〻ま
ーいと紙いふ。りふ生 ようふ ト 風呂ろうめるあと、ほれ茶碗入り
ども。さんよあふんをふちろ ぶろのちゐれとふとーく。ぐさくーしけきがくーく
ちーくゐる。ゐくて ほれ茶碗 由 傷よいくーしまれぶーきく、きてゐるよ。ゐくてゐるを
ぜんどりちいで。ゐひーまひしゐるどろ、八ヲとれは退 屈さ茶碗や
ゐるのぜんどうざーきくりで きてゐうて
ゐろ 陰 ちゐげで 今 夜 ぞそ。茶碗 大 私よ 茶ふさやうゐん 待
さ。ヤ 時 よ 此 海上 ヲ 雑よ つゐて 行ひよ。一 ないやちゐろ。
モシ ゐんでおゐめくの 耐よ 有は ゐりやせんゐ 八 エイ 茶碗

とナ。どうひんノウゐるとも 茶碗
ゐのとあげまちよゐんまヤ 八 茶碗と土瓶を 茶 ゐる
ちいろはゐんざちゐりぶ。ゐんゐるりゐるりのゐ。
八 ゐ〻〻ナ。ゐうぞゐのゐ 相はどーしゐるア 八 ゐ
ぞひやゐう。三 番 曳 の 吸ゐりめで 外へはゐーと。ゐ 牧
呑 ゐうはーく。何 でもいゐうゐちゐゐ酒を 生 ーくゐんな
せく 八 モシ〻 その 茶ぶゐやく 土瓶のゐとで。浜瓶を 生 有
ゐーく。茶 灌 のゐうゐ。鍋 釜 のゐしゐ 茶 ゐりんぞぐ

新
かく
人さ
ほハ
ふんこん
ふふ
これハ
きゝ孫の
ふ人
ひゝの
富
自主菴
天久

ようろへぜ（せんぐう）ハ〜〜ろくへいえもうまづんてどやぷトレいんき
（キョクルトニテ）
ろうきよあげまちよいこ（子ヤト）ろうえゆく。ふどるく（女丞を）
（もち）（ぶるとぶがそうづくのあつけ）
（ふるをうちよ入れてせんどうかちりづるおとうと）
（おがうちまうしとことのさくく）みをとりちまう（どうびんのふとび）（大）
のどやがナ。あんぎょうらとどうよ（業）さけさうひみアぷひろ
おおぐうかうんぜ（ハ）ハアどうびんと（塩）のる。（茶）（袋）
とうへぷいうづうのとぶろる（せんぐう）さよどやぷ。ろくふ居ぞ
ろうえんぜぷ〜さいへぶ（ちりうラカツ）ちもおあ〜ろうえん。その
どんナア。むうとかいんぐんぐうろどや（ヲ）ヤ。〜〜（えんぐんぶうろ）
（とうりぷ女ぞうがきくいれしを）
（るぜ女ちれてのへいとうとうう）（ハ）あとて（ぶよおいく）かうたどめやせうい
ワト〜〜〜ぷ。ありまちりく（ハ）ト（ぶろちぶうと）（ハ）ヲワト。いうぶ紀のうて
（のうきぶ）
（ふるうけてのんでいるうちう）（ぶ）（そうりや）
せるたーふぷ。ありうぶてくのトひとうちけてのんでいるうちう（ぶ）（そうりや）
（ぶるりうぶーぐそやネいうぶうめと）
どぷ〜〜のぶう。今うの酒（さけ）をのむとうちまちぷ。むねがうるく
（ハ）
なうう〜ぷコりやうまうぬト（ぶちりくえんよえんさきく）（ハ）（ぶうーうく）
（ぶうぐりーぐうくとあうくうと）
女ぐう（ハ）何ちうみさんく〜（ぶ）アく（ぶ）ぶういうのがろおうるうねぶ
（ハ）（さけ）
酒のうろいのどやア移くぷ。ぷアきくさぷ。おめくうんぷひう（様）
のぶちうぶあくうさ（ハ）ぶうるのぜ（ハ）きのよ（縁）でうの大（えん）喜の

とき。好物な酒を一生とべまちめくと。金毘羅さへ
ぶげんまくどやア移へろ〜ホンニさてどやナア。ゆふべうも
ナア。室で酒をのんでゐやとな。あでよりてノウ。ちろうん
とぴとおとべちろ〜どやアろいろんこやアはなるねどぞんな
ちぶのつぷりてくねくとそ〜ぷコリヤどよ〜ぷ〜ぷとろふ。
まつ〜ちいろ〜も酒をろて。志まるくろ〜ねどろ。金毘
羅さるもぷんが酒紙ろうとぷいちろ〜おぼえてもどざる
めくどやアねくろ〜でどやて。ぷんぴ〜さるのだちナア。
ちろ〜ろ〜のッイけうちのれとるのさ人ガナ。そるのいか
とで。茶ガ月遠ムて死でどやろいな〜でくのとぶ。
コリヤどのぞ〜とちとびとるがい〜ぷりヤち形どや
ろいる。ちくりとでハナア。ぷんぴ〜さるへ酒のうろて
破とはハナ。之れノウちそちるびちるガ頓紙どやこや
ぷ〜ちれとハぷ〜夜ろぴとんえてゆるのぷりヤ
大変なアろうどハナ。そのぷいのエハ辛抱ちるガ
いぷのうくどんな業ガあろて。おめくの牙のくよりめ

ことがあると。おいらがかんぞこ　弥次〽どふせうもねへが又むく
してくれ。ひよつと死(し)んではなしにならねへ。今(いま)からこゝろ
待(まち)しておかびしやせう。ヤア　ヱツトコナ　ト　立(たち)あがりて何(なに)か口(くち)の中(うち)にてぶつ〳〵とひとりごとを
おがむ　女房(にようぼう)〽これのよなさんせ。夜(よ)が夜(よ)一夜(いちや)ごろ〳〵ら八(はち)ハ辛抱(しんぼう)がでけ
ねへうちハ。井戸川(いどかは)まででもどうぞりまするよ　弥次〽そんならハ子まで。
南無(なむ)金毘羅(こんぴら)さま〳〵　北八〽ハヽヽヽ。おいらハよく酒(さけ)を飲(のん)で
あんまりごつサア　北八〽亭主(ていしゆ)も盃(さかづき)ハどうするる　船頭(せんどう)〽コリヤナおさ盃(さかづき)が
みとりあるい。釈迦定器(しやかぢやうき)が備前(びぜん)おりくで。ひよつくと有り〳〵

子ヤ。ハヽヽヽ　北八〽いつそ夜(よ)あかりと上。大(おほ)きなめんで中(なか)らそくう。
弥次〽コリヤくめんびやうげんな。酒(さけ)をあがつてくれねへかさ。あれは
えせてたのみハ情(なさけ)なさん　北八〽そこが辛抱(しんぼう)ごや。めらつとかんそく
いなせへ。しかし船頭(せんどう)さん。アヽうめへ酒(さけ)ぢやく　弥次〽立(たち)まちのふ
かげりして。少(すこ)しばかりハよくなりしが。又(また)今度(こんど)ハ咽(のど)がてく
て胸(むね)がらすい　北八〽モイいつのまにかへとどうふ　船頭(せんどう)〽あらし。
おきのどくじやナ。めとりおさきまおよいな　北八〽おめいが
おそろしい。そんなおかはなく　ト　うまてさかづきでおさかめる
と女ぼうがくつてかゝる

おとこ　おようのさんせ　それがあいく
ねんごろとうてあげえせトいとまごひしてろてへゐく。女とこをとう
ちまひとどれもろくもくと、小八八そのの
ねくろ。隣合をあつ　ねく男ど。コレサクトあしでおこをと一向
ようもあくようのびさるろう。ちぐろくもるとろてのうとものれたづきろうろう
ようとるはいるはかきのうちいちやうさるおひやうさるあり。のんどうの
油をつぎ　女　おまいさあ。やぐおやとなるさんせんろ　男　ちめく
のくるのをろてあく。コレ爰へまるなるりぐのる　女　エイ
おまあうらうや。サア行なんせ　男　おめく行るなろ　女　コレ

さ行くねてもあいろいろヤ
ひやろそ　ひろうさをかと　女　情ないそとくいろてねろくてもまて
ちろねくえるとろのろうろ　ちまちまち　ろ行ようろ森まちよとれべろつ
あのを　女　ねちふいろえんと。コレ　おそろひおやな。コレイ
ぐふぐあいなト　女　いとえのの中ろむまちまく　ほいろねろさん山くなれと　男　そうんな間の
ろうひとろアねく。まちヤく八ろをろそぐいく。かか行ばかぶ
女　九ッでもあろうい　男　まぐひとはぐるコレあり　せろ
おいろん　ちまち　を結ぐろ行るろうなろねく。ちめくものおを

喜多川月麿

貳 和亭鬼武

多く来る。とうてめそもたるものが出て来ると。
「女」あるとい。
ちやとうてよとナポたるのウたるとこいやく
「法」
そんならコウ。狭槌があるべうつて来てかーねく
「コレハ」
かなこいちづちのとこいな。リレ伊ちんさえをのぐ出へ
「陸」
イヤあの箱枕を出ばくうちつけて。主ながら森る
「法」
はかうぶ「女」ヨあるく。何ちんいふてゞや「法」「王」宝の山へ
「法」
なるぐらいとむなくといちのこそれまいりだくう
「息」
う。息子どのまぐ。ちうさまかう。主様とそこコリヤこう

らまぬ。「あるぢうゆきてそよちぐ」「ハヽヽ」ちりちく。「コレ」
「出」
「女」女中。あの男よくまつこと。森てゐるものうが取来る
「尾」
ト「あびをちうそりをとりのとるる」「アレはまぐノウひねつてゞ。
女はちうをつぶーたれおきて
「ビックリ」
ちうやまつまがつく子ヤ。ト「ハッのくさんまくり出てやくとあわー」
「ハ」
「ハッのときのクねゴヨちくーとるる」
「ハ」それりハッぢ。ほ次さんりの森る見へ。ちうちく
「ほれ」
「ほれ」いあくまーい。まくめんだぐよーあちくものをちりろ
くもるんとも弦く
「ビ」利益を茶よせ。むくひうさまこく

寝ぬ間ハさうまちぶこと
ゆゝしくて笑ひを作る。その内打ちうがゝ
夜あけて起出支度そのくぐつハお山よりまるべーと。
私共を案内よりの。式宿を立出りわど。絵木田
のくぐつ。いくるよいる。九里半ありまれり松が鼻といふあ
尼拝なりとく。十軒あるる子供よ獅子舞を
ゆべせ。太鼓うちうち。残をたりのあり「サヤく。且那
さぬぐさ。お尼ゝうちとひまうよ。浅ゆんせ子や。トンチキく。

トンく「ナンダ尼さまひざ。毎日よ来さうしたうを
やろう
節分の夜あ人私ど尼拝ん
おりてよ来れ松が鼻ら那
ゆくてまだ「わべ。板井村とく。旅籠屋茶屋など
あるきゆよ至る。途中よ大なる唐洞の鳥居あり。
是ハ東都の人ての建るよ記あり「ナニト愛で
チト休んでいる「酒至いどめんざ。解よまようトとと

「コウあねえ。その餅を十ばかり盃
ふでものせて出してくんな」「イヤ酒もあるゼ」「ハヽヽヽ
あつきあつてをせ。そのうち餅いくつでも振舞ヨ」「ニイ
おめぐりなさんセト」「その餅ハ焼どころ。サア
たべめさろ見」「その餅ハ焼どころ。サア おめくうとたべ
るの見」「えんるゝ一ツ喰てさえ」「ドレくいい餅ぞヤナ
餅食一本と見える。新改えんあげヤ」「ヤ
あるしるくん」「ホンニ おめくハ売女体の上戸であるさ
上戸の茶でもあるあらしぶ。茶でもおもいれのくなせ」
「もいらもりぶめんぶ。ほれさんすぶうとけてらん」「ヤ
ほめくの食さんハあやまる。犬ふでもあるてあまれ。あと
ハ古盃ほ出ぶおつもうよあるうトひとりむせうよりもを
大坂諸中月番と云ふ茶やへどうとをうを「コレイナ」云ひ酒ハ合でうう
きさうかの茶やへどうとをうを「コレイナ」云ひ酒ハ合でうう
おくをんくいな。青ハなふぶあるぞいな」「そいめくましい
あうぶ来さ。サアくいくく」「ハテめちうと休んでいさや
まあう茶やのえん」「エイ おさうるハナア。へうぶのお汁とおでおあ

の菜はなんとナア。とかくこの生きたてもあるこいチヤ 大阪者〽その鯛の汁こうろ。そうとりよ。ろくあつかんにしておんせ 女〽アイく

ト おいてけさるなをもりてくる

大阪〽ア さてよといく。よい酒じや。モシ南国も酒の名所でござりますそこいなじや。

小八〽させうさ

大阪〽あるさおもちひなのじや。お意外なめがらひとつあげましようかな

小八〽それハありがたふござりますモ

大阪〽サア あがりなされ。酒をひとつでハとうもあるまいかのじや

ト 北八ハさかづきを

北八〽ヨトこれありますく。でいま呑ましたら ハ又格別なものぢや

大阪〽さてくまそつちやの方へあげようされ

弥次〽それハありがたへ

北八〽ヨヤとんだことおめへからアゆされます

弥次〽ホンニそのぶつちハ酒もいちめのぐござりますそこに

大阪〽ハア金毘羅さまへいきなされさうかな。さだめて何ぞ願がけしてじやあろが。そのぐあんハなんぞかよういな

弥次〽おらげで災難を逃れやうと

大阪〽そりやなかへよいのじやなアいのう。ハテ願さへかなふてやれちつのめのどや。呑んしてもぶんないかし 罰があたつたとがたるで命

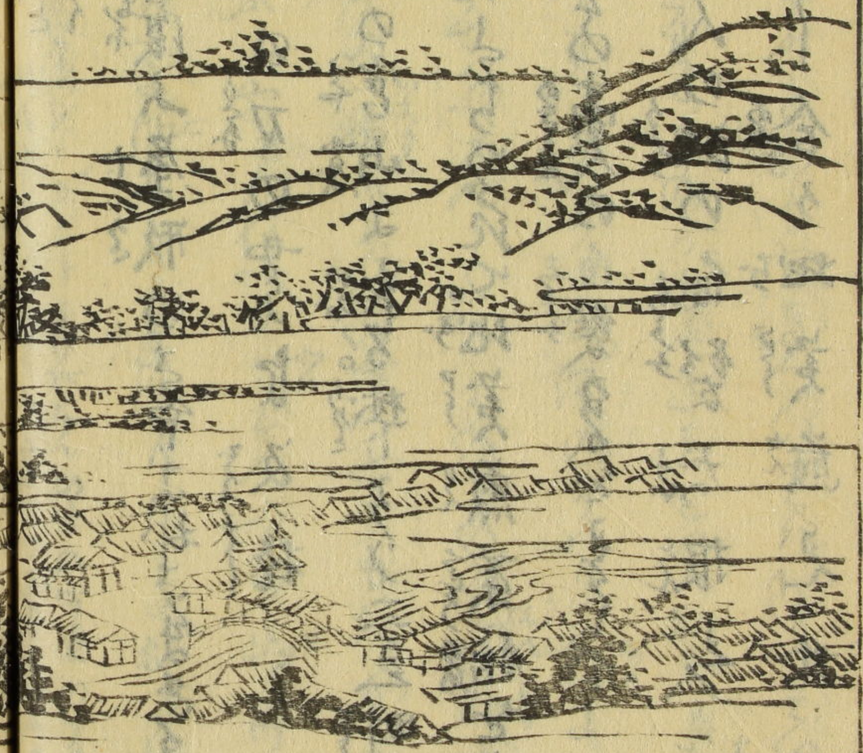
ひとつとそちふとおもやをうついとハなりいろいの所
命をとをしをるものゝとんぎとをいふお人ぎ所中て。
酒ゝとめゝるくめくいな。酒のくハり外よおまいの
とをゝなめ。そうへさんしくぶらいろいの所外よとをな
めのとりくぱゝの一物ぶぶ。そいゝハどうゆたをめくぱゝ
時ハ北ハいゝふどやアねへゝ一そんなゝ出くみゝふアイ
おせをを大をゝ所ちをうよふりやゝぶ。おをへ来り
中をトハ所をいゝちいて五六十曲げがをえひゝの町よりる。丸屋より
見ぶ三里有りうちの有ゝとをゝなゝ有り。

上よ中くありていと
めづらしきさゝゝなり

上を濱ふ屋形のさ中よおさなを
沖代の刀のやうな反橋
をゝ様ゝ様現の宮山ゝ少をる。禁ゝ二三町ゝゝの
市ゝ。商家ゝちつゝ続て。地美煎茶紙を賣家多
し。ふ次第ゝの商人の自製をゝく
うゝ人の次の自製大根ゝ
ちとさゝ合ゝ地ゝ美顔ゝ世

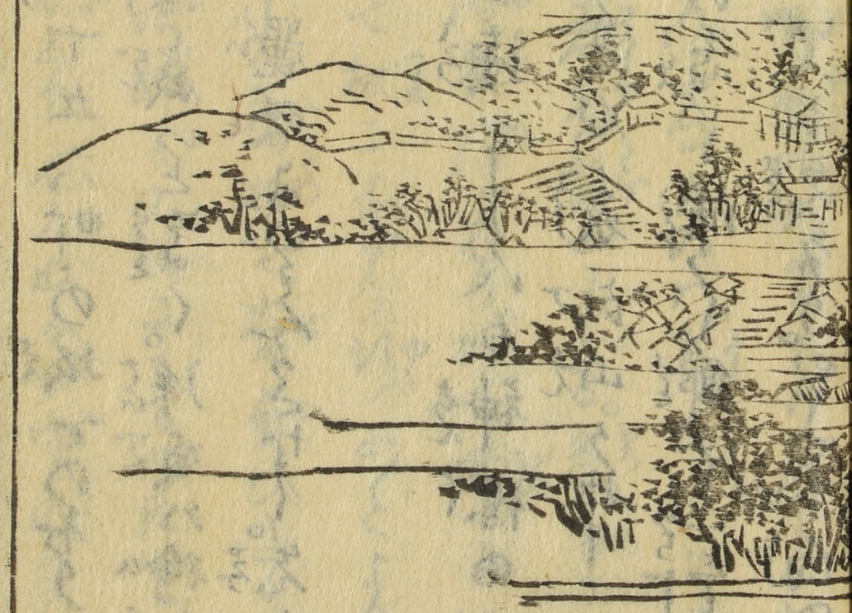
金昆羅山
麓之
風景

三時後の
ゆふ
まぐれ
ある
時
山



秋ぐれの
いろを
みて
初しぐれ

春秋亭
仲佳



坂と仁王門より入十五六町の坂をのぼりて中社にいたるよ。その荘厳いとそうるく。孫廣八檜皮葺みとりいろめ〳〵。花麗殊にいとうとなし。先賽前に額突きぬ。

十雲盤に達せし人も神徳の
おもさにはまさじ泉涼山の邦
此山より海上の島〳〵浦〳〵郷〳〵一望の中に
見えたり。風景いとも美なり。此下向の道は

いそぎよ。拝殿神馬堂の前あるなり。あるなり。先ず
ありて。磴道をのぼりぬ。年の比廿二三家と
見えて。大ぶさの若元髷よしる。白き女布子
のうへよ。中形の浴衣引ぬき。かく帯よ結ひき
あげ。ひとつドクけみて杖よとぶらひあとより。六十
ばかりの駅仁。少しの荷物を負ひしるがうち
はきてわれをぞ。孫次郎らの女よりづれてもいと
ぐ。此近辺の方とも見えぬが。女中のこのお山へ

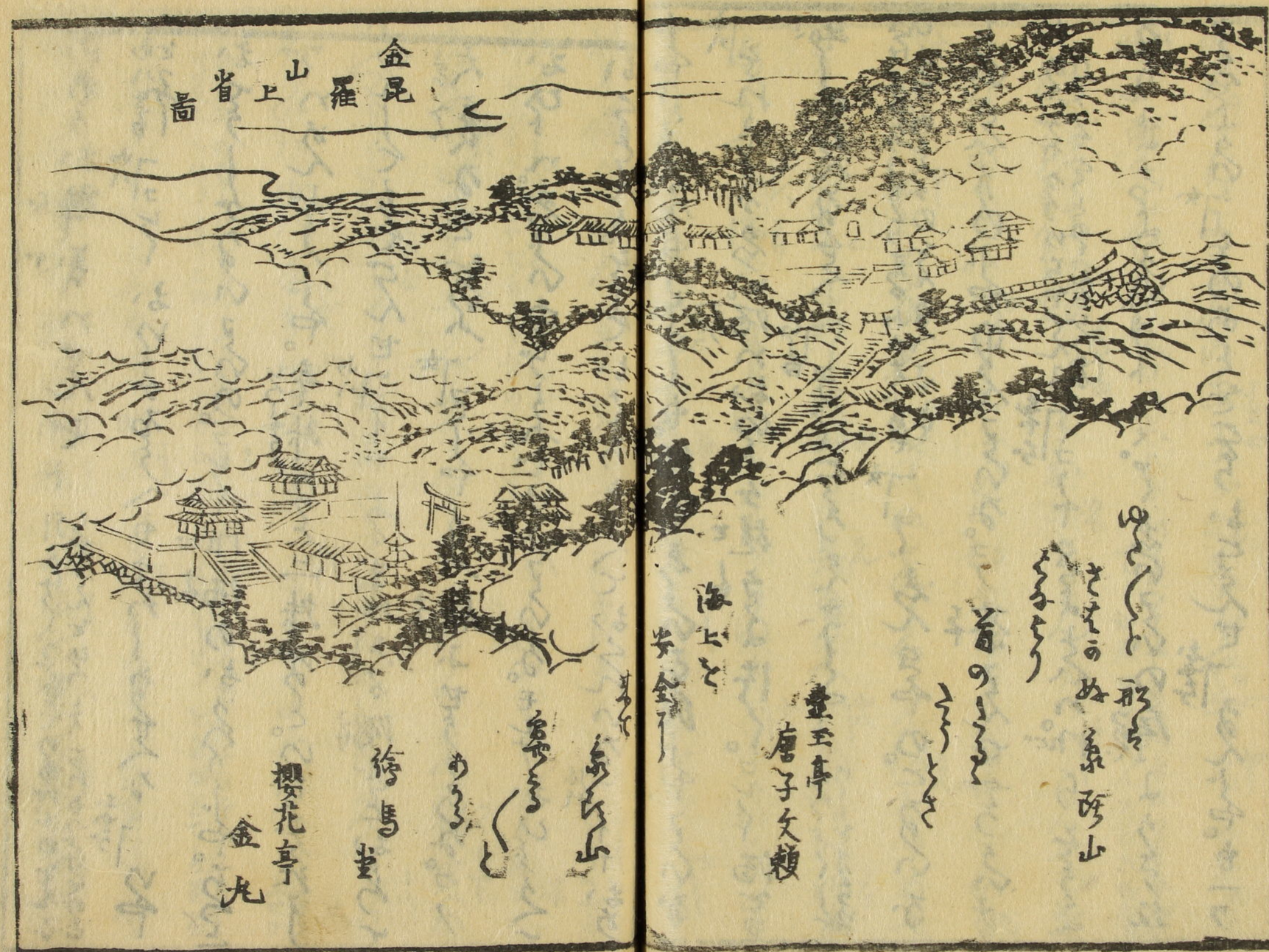
系清水きよとゝいへゝ。こゝらのこだいないよどうちゝ
かゝりお出さの「ハイ」こゝやゝ。大坂のゐうかゝさんゞゝ
こゝいな「隠」十二大坂こゝゝゝ。ソリヤアこんごこゝ。たゝさ雨
人連ゝ「女」さよゝやこゝいな。アリヤこゝのこゝさんゞゝや
ゞか。ゝ。こゝゝゝこゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。こゝゝゝ。
ホヒニこゝんこゝゝ名ゞこゝゝゝゝゝゝ「ハイ」こゝいゝ道が退
屈でゞゝりやせう。こゝゝゝゝゝゝゝゝ

おまのさんがそこへどうちやへお出なるぞいな。
おまのがもナア。序よ音通寺うそのほ谷へ参
俗ノウしんどざんしごるいこやト申くをとをうしく
おりまるよ。ほんにそうかハも。さあとがとさやだくのとより
ほんどうれさそうしく多度陣ろのどうへかりゆくこちらぢ
女中さん。今夜アこうちうが上ある宿くいつしよよる
とまりなさへ。おどまりでよろこへぜ女ツリヤもうれしい
こうちやこのろ下そのしく。おめくとおいがいつしよよる
ばうふうり女コリヤ。久しうお客と泊さとがるいさう。

どうなのとしくおこれいた。ヲヲ。イヤおめくの話
もちまこ。どうまとおかりねとおりつこ。青城く
下ニおめくがきめりぶもおうんぷ。おいがさんへこうを
けこのぶ陸そのいろねくぞ。こうこうもれるこうつて
ゆる。ノウこうさんぷ。耳が延引ちそのるといいい
んぶ。コレおめくさどこでも呑ろうこうれくこうアイもう
ん。強の内じやこうとこうのみぶやるみとこいの女ヲ
ゆ。たどとのと呑んちといんどやこいみ下ニ子

のめ。こらよるんの玉子があるぞい。牛蒡のようア
畑よあるじゃめろ。ワハこミト ぶうちたて居通寺さいる寺ぶ
ちゃなよ中とまんとそる ようこうぶんのそ門ぶんの
ものがあるうね 女 ちゃ わ。ナ。ひと もおうそなのようんこいか
陸 おめ人 飯ふ ちかな人 プ ゴレくれちゃもさん。何ぞうめへ。
さるかで。おの子よめ紙出ぐそ 呉なる人 男 おいふい酒あ
ちょよ 陸 酒 ちかよ 行くこちのぶ 男 ナニおめくそ
こちのるん。此子やとちざんの春なるぶろう 女 さよ。

じゃ。とくさんもとそーも。酒ちかいち紙じゃこいか。
男 そんえんぶちい。酒いちいふが旨ちるはく。コレく酒ち
出 ぶくそんなる人 男 エイくこちろえまーと あらぶくしめをかろ
さけ さんなるちちる小八ちぶ 女 ヲ きんきやのこないか
ひとちのくちのきんちくさを
ちいさんりめじゃめんこいる。コリ茶ちんでかろういナ
トのさぶやりのちんよ 男 コリヤちよとんいぱらこそこ
引ちりそぶとのこ ぶ
ありまちよう。ヲトミくぷくちいの。庫ようさん
まこちよう 女 ちのあとをこちおとんせ 男 ちんじゃ。も一ワ


金昆羅山上省圖
櫻花亭
金光
海上を
安金丁
壺玉亭
唐子文賴

のめうお辞儀いせんぞト引うけ〳〵つぐけとのあべがのそんな
ちやうをひろとられもつぐけとのむ
おもハを「ハ」コレく おいとがをうへもまわーるの女な「いや
おそうしーがるのいるいのコレく「ハ」酒のおろくぐやちと
でいめんどうじや。そ弁ろと二弁なといちどれう
めんしそりそごんせ「ハ」イヤふるまハまる酒ごとあるうて
大変なをそろ「女」ろーやもの「ハ」仮ふせうるいるコノ
おひく。そろいめぢろふでけさろいる。モシナ おひろくて
おくとんろ。そしそおさちもうくとおれいな「ハ」イヤもめ。

新よ「ハ」合ぬ大食ごるコりやおそれるく ト ふろうなるまろうこぶ
えそのろうちろ女ハいろいろくまハぎさろくと
ろーまるとがのおやぢもさろふくのんでーまい
ろるな「ハ」いろさる出ろけやしまう。ぱ「ハ」さいーもさん勤宝ハ
いくろどの「エイ」〳〵六百文十文おろんなろんせ「ハ」
ろろいハ小ハ出ろ出ろろせく「ハ」ろろさがねく ト ふせうぶ
よ。あとろのろひをすーて立りそ。曼陀羅寺へまろうぶそ「ハ」谷きのふりしと
ふいろるこんひろうこのとろさぞ三里あろうぶぐろめーを名物とてろる茶屋
あり。既よろやろふもちろ時ろーろる比とろのろぶまるまでぞ
曼陀羅寺ろう。弾よ険雑の山坂を歴て来るろれば

おのく見もせうれ。そのうへ小雨のふり出るよ。夫程
降のうへいまだ程遠きようをきくよういざやまくよ
止雨までこと。お続して。或茶屋のうちくをいう。
限ナシトコロヲ。とうをえてうんうきうにくがちと早い
ぜうきうてくものさのだ「エイ」お雷ノウ雨ようよ
ちやまやセゴリヤ長松ヤ。湯ノウうんでうてうん。ケア足
ノウとういでそうくあぐうまヤ中せ「アー」こまいお世話
サア一服よやうか。サーやうト。ちくこうこうどとき。あーとあうも
くぶくのむさうーきざまくとと

コレヤまくこ。ちそのうざさもまくるのつうらいか「イヤおい
あとの茶屋で。おまちをかえてふひるのぐよ。まさひり。
いとへ。とんざてうひぬけぐぞ「そうぞやてなんぞくこと
まんういか「コレくだあさんめーのでたるふいあいぐが
あうふうう。何ぞ外よふりのハはくく「ふぐうぬ」
ノウ。ヲの名物でおざる。こハーヤまセ「コリヤうろう
それをこけく。ーてうんか「エイ」いんまいうこうよ。コレナ
ふうこうまヤどあうこうヤまヤまセ。コレちよまよめーびつうり

長松

りてこいやいト　あろうまさうぎしてだぶいめしびつ　コリヤちよまヨ
月よをめーさやくもとあぎイるぐ
ごうんさの下ナア　搦らべてあろうとけあ　コノさざいちごんん
へ伺ちふーてのぎるぞい。エ　ろくたたトノウふくひるトもやうふさう
すーくもやぐうるのがくく　コリヤくちくまよ　コノあけこノウ　盆よ
ひぐちよりけてやきさを
の世てちやとちくへりていけあ　コリヤく　炭屋の世話の
じやろのいろい。エ　伺ちふ　よるる子ヤ　こちどけあいトあき
こうふのひうちびこあーめつけて　はいれご　ろう　ザアどろうもあつて
やきめーをぶんよりりちくへめちいぐも
ごんなさく　ヨヤをあごんふぶろうめしへなぜごんるふ

まろうろぶの　リリヤ　ろのハナア　さどめよ　みぐろう
三ッ四ろだろうでどざる　そんるうろうの三ッ四ろへむめく
の手あろハ彩いてちまろうとくハりのぐらっをの位へ
ごんさろのの　インヤ子ヤ　ぎあとみもぐろっちの
ぐろうろうめぐナア　ほどの　さどんノウ
ふさうめしとまちぐくて。盆よりりあろうぐナア。あ
茨が盆よろうはんて。あぐうめしノウ。ろなろうも
ごどろうはいぞれともどんノウごんしやまとなろう

こくりてぶろうくらいまや　十二こどんが　こうをるものら
特出
とんごとをいふだあさまぐ　インヤ　そうのいおいろーや
ちちおぷらどもいくひありやちとこいぷきのんべうもが。
在所　よのうちうちふナア。ぶざーノウどざれて。
どんノウらうらうて。あづきりけてらぐらーやはし
ーこいまヤ　十二うちだろくろ。ソりヤーこどんどやア
ふるめくぐさりちのをさろう　おシニナア　そのがさ
りらでどざらぷらーおぐくぐとゑひでらざるまや。

おりーろくもねくるんのをぐ。ばーーアそれいんぐ
るんおーろけふぐりめーん。釈迦天のひとりものとをを
節　妻ぐろあやまる。りんをこぐりで。あとをて
りねくよ。サアおめくぐさいぐりぐ。ひるをらわくう
ゴーやるんでもいこいか。をとえあぐりいかいとむ
るんをこるんこいかト　りとよりおぐりてんぐうまればいるを
ちりのはををトハハををぶふ
えをこををるむりみて
名物　とこの紅てをちけど　嬰　のもを

みぞりめ一ケ所 紀谷の茶屋

がくて日もくれるゆふ。夜食も出そそりくよ食ひ
ちまひ。くねてゆくやうに。大坂りの女をとゝ公がけて。
通くも奢りちよかせ一ぱいぐんでも布子をとげん
の下ゑ。あてゝ抱しを須りをものそだ。ひりよとかて
叶知よとまりしるなり。ゆハ出をとり。横ぐく
一ケ。ゆ次命よ鳥あるせんと。ゑもいろくよ亀撫く
ぬるゆ。ゆがて彼と。四方山のもりもくく撫

一段とるのう。座敷もせまけもバうの女と狀仁ま
次の間よ床をとゝせ。打ふくとり。ゆ比命ハ小ハと
るのうびてふとん隆りうぐう。元寐入くて。人ぐの寐ちぐま
るをまちぬるよ打ふ。面ハをやをゝ。ゆうて。をろ
林くく。傍ゆの方のたるゝ。夢も比方よ立濃ぐくて。
夜の更るよまちぐひ。ぐいびきの寄の嗅くゆ。
時分ハうと。小ハが寐いきをぬんぐ。そうとあきいぐ
次の間のかくうをそろくとぐきしるよ。有明の

とり〳〵火のけまばさごろまろりと女の泣よ母が
さろう。是こそとて。ふとん引まろ入ろんとする所。
女きもうようあくやうにする。泣ゆゝ声をひそめて。
「コウ〳〵おめく〳〵どうぞしてくろ」「女」「まじめいなきもしろん
何きいどやぞいる」「侍」「何をとるものう。ないくの咄が
あつて来さるめをおめくも用事であろんじゃわね。
「女」「ゴリヤナさきまかく。あんだらがこるひるかい」「侍」「あんと
きさのぞ」「女」「アノナ」「侍」「拍落の恋者がおろさるる」「女」「ヤ
るぞあれむりいふ。女ゴ恋者があつて法事れ身の
「女」「ナンイナ。ゴリヤ女じゃるいか」「侍」「女でなくて
こんなうつくしい男がどこあるものぞ。個〳〵女う男う。
ドレ〳〵ちとどけてやろうト。ひろうよりつきさて。そろそろさんぞうさんぞ
ぞ。つのづきのひでも来ちと　母めーハ老ぞ〳〵けはいけ〳〵こんおもむと
「ヤアこく。ゴリヤ男ごく。どあ〳〵
おめくが男ぞろ。おまとあハさろたろうろうねく。ぞでしーを
うどちらぞでハ祝く。合点がいろねく」「女」「そぞやあろぞん
ぞ。ゴリヤ赤村鼻ゑ助と
といふてた。在数姫の詳長

くさ
ゝ
ゝ
ゝ

子どやといな。去年あらう痔を煩ハてナぬ死
うとそんさわどのあつちやあつぶ。このそうんハ
ちらひとう。なうみしてぎやさういんびらさまへ
ぐそんがけしてぎやあつぶ。そのお新やうしそ。そんと
ちんあつさうの。そんでまいやいうさんぐさのぐや
ういな。ちあ。新やあらうひくさとつしそ又さをようう
痔がいとんそ。そんま持病の広まがあるさうん。いちぐを
よおちどき。いさ。どんぞこーさちておきいる。

きいさやのく。ハアそれでちうぞうとうさぐおいしア
そんぐうまうくなうさ。そるのかをいうん。せぐぐと。
ちとのまぐや。てさちうておくまんういか。ハアまいしア
ちおめくと女ぐとおりひつめそ。とんぐ余汁なことを
しう。ホンニ式痴寸のうんびやうを寸とん愛ふも
ちうちうんぐ。ソレとうく。アイくおうまこいちうちや。
どんやちうとうふるつさ。ちんいそおやをなされ
ハイ大きうよおとる。やとやをもじめくと。コワヤア

ねつかとうまつねくろうとぶくくとといひあげくとどぶ森ぶ
あつさのつおれむろうまぶをくもねくぶハをもくめそコリヤ
まんとこそみうなづきふくねりりをあまりおそーく
ハハくちと起さろせくフイくるんぶく。是いまろう。
おいらハねいろそよるフらく寝る男ぶゼコうもめく
るんあもまろねくるフちうねくとぶるのをくフいる
おまがつぎの宮の女の正いろををフヤアおめく
あまいろとまくろ。平残念ーフイヤをめうぶゼおいろ
まくくちのあるあ。その色大のまけまろとさくる

ふめくあとくまろけさろせ。ふく森入そめるかフリヤ
あつがさくのおとアあうあうんおめくをぶーねいそ。さえがけを
まろふとおあってあぶッイ森へうてまえくぶまこれぶゼま
かけ出そふフまーいろーフットせうちく。イヤまる
おいらアおめくのふるちゃねぶ。ちちよそぶ百とるかぶまいれ
うきのあしめ。大ろうびよ。まーがくせそこよくまめく
トおりくとあきあぶう。番むんいろうあそ。そろくくとつをあまくぶける
ちろうちぶさのまくーくはばようかひまり。ふきぶーそつよあうえてあるうろ。ふ
ハハふうぶうをさぶろくくいのめるあうとどうんぶ。そろくと
ふうん。ぶまうろけ。ちろのうまるハまをれて。ぶゼまハせバ。せんきあそみうん

[illegible]

「あのいさく。どうぢやぞいト大ぜ[illegible]

「コリヤまちあまく[illegible]

火イとりとられ出をまく[illegible]ト[illegible]

「何ぢや

[illegible]

「何とられたもちまんさろん

トもくのまるまさはいろのまろ[illegible]

あげよあとられどもあんどーのもーとられもめつけられてまづくまろ

えをえつけて

「ヤアく、おまいらいるコリヤどうぢやいな。

「イヤあのころころへあげとんのいろね[illegible]ぢやともりへさぐ

ぢうしそ。人のねてもる西へのめりえんでなんとさとりもの

ぢや。コリヤとられんぞく、ト[illegible]

ヨころりのへどもこんぐう「イヤく何といろんしてもさろぬく

ぬいろこうまきりんを

ヨレ寝の花。[illegible]

「コレサくまづまづうふ

しそんなせくぞうちがぞうぞうでもあんでもおさい
やせぬ。和をいへわが那が。さうくやせんがあるやうも
おめくの娘御の西へさいとうへとありてピイかどうぐへ
といふーやくくト蝦のさきでさくうのそんそれが一平何いへ
ぞいこうが娘の西へとへこりやこうさなへ来だ〜
ちがへてういかこうどこの娘とつまてまへとさきぞい。
コリヤそちのむをそどやこういな一分ナラくおめくのむをそ
ぞそんなくの女どやアねくのこやアくどうこそ大きの

金ぞあつさ一分ありふてもどちやきそんのどやア
こうが叶紬布のひりくこんでこうさまどうけさのどや
一分コーやそんくまうとそひやて一分ナレト一分アノ金ぞうと
ありてさト耳のきそ口と一分ナニ首をちぶよそんくまが
あるのうこそのいかちあくくこのどやるい。あり
そうこいうんせ一分イヤむをとどのく金ぞ。こいつちぶ
くとありつくくこそ。それでおめくの中へ一分ナニむをを
のそんくまがまちぶそ。匹ぶ中へくこいるのうこのやく

[illegible]ぬをぬう[illegible]。そのいなとちゃ。[illegible]ぞ

[illegible]ぞ。ト [illegible]

[illegible]

めばゝしや 裡 森入をしをけべ

とうちぶへ[illegible] 金 むの 論

[illegible]

[illegible]ぞ。サア [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

それより弘法大師の誕生しまへとゐふ。霊跡乃
堂をうつて。十四体搭をまつり。あきこゝに度
体の地蔵下よいる。ナト。そこゝで休ふの。小八
まめくぞふぞーろ。とんぢ顔つきぶなりけてあるこ
イヤ。そ教ゝらぞふーそろ。虫歯がいてこのよね。
ひさーくもんなとんなろつぶ。アこそうられなく
いえで。ありヤうういの。金昆羅さまく。祈を
ゝけるぶい。酒をゝうそふハいねく。イヤさいい

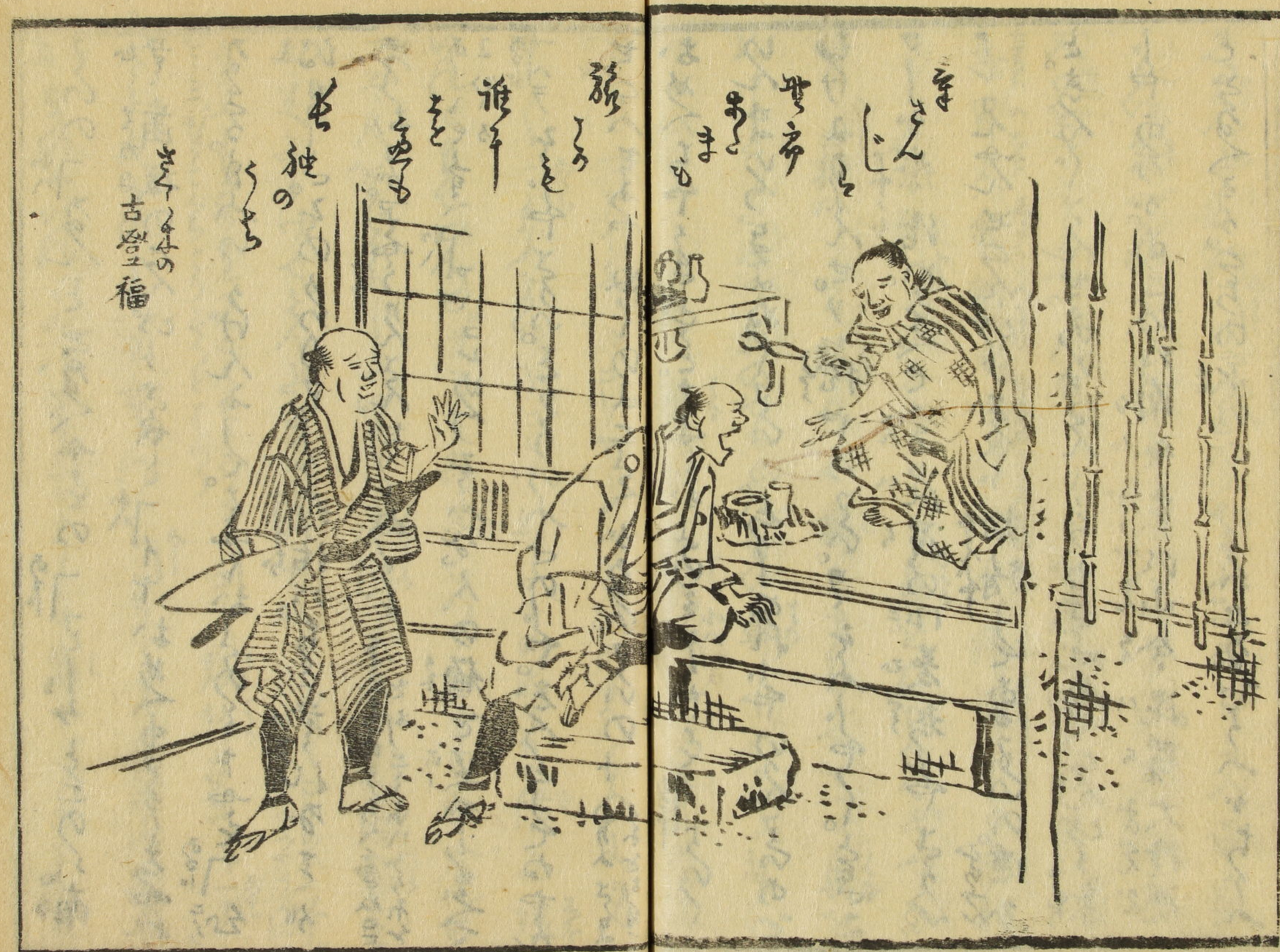
むしよ。アレもんひゝ。愛虫歯の葉とゐふ看板
がある。買てはけてえさろせく。ドレく。のんまりいえん。
買てえてふトゝのゐんむんのあるとくそれバいろてそさうあるこ
ゝ。ハイちとおまあヤとトこのうちちく
ろところまーこちろ。
えく。ゝ。八十めまろの大ぐゝ。ゝ。ゝ。
男。そぐのーむそろのゝえそきさく。
さ。アイもーむの葉をトゝ。ゝ。エイ。むーむ。
いろくあるぶ。こなさんもーだゝ。ハイゝちぐ
ごぐゝやと。けさかゝどのもいえんでなりや葉。ドレ

ん せ さ ん せ 「ハイ さ ま う る ま ど ま ん な く さ い や セ ト テ を
ク ケ ま そ こ ら ん ま い ま ど ま ん ま 人 の 指 の 間 を ウ ま ま し る と ウ ケ ク ま ら ま
ま ま ん ぐ の め ん を ら く て 白 粉 ま ま き な ど そ ま く ま の ま ら ロ 中 ア ま ら ち
の ど う ぐ と る ま ぐ ま ま て ま ら ま ま ま 決 ま そ
の ぐ ま る ち ま し ま の ま う ま る ま の を ま ち 出
こ ち と あ ん せ 「ハイ く ア こ ト ち と 「ハテ ま ら ま 大 な
こ ち ど や そ ー そ い と 不 掃 除 な ま ち ち や の 歯 く そ
ど ま け ど や こ れ ど や と ま の ど ま る ど い や ま る ま や ま ら
「さ ま う さ 叶 男 ハ と ま く 女 ま ま ま ま ま れ ま と 「そ ま ど や
ま ま そ ま ど や ま ら 。 虫 歯 ハ ち ま ま 上 歯 ま の 「下 歯

で ど ま ま と 「ウ 下 歯 ま ま 屬 陰 合 口 則 陳 於 上 歯
内 如 向 外 挑 之 則 易 脱 。 と ま る コ レ カ く 「ア イ タ こ と
「コ リ ヤ 茱 ち ん せ 。 ま る ま ど 一 ま ん ハ ま ま ま る ま て も 。 ま と
ま る な ま と 。 外 の 歯 へ ま る ま ま ま ま ま

くぇんどをとナニいとうのいようよ。あぢょうえ　ちょれ
さうい。糸づひえんをるト　ぎぬきをとりよせ　サア目をねむつて
又口をアシとやうんせ。アコリヤ　ちさい口ゆーじゃ。この口
臭胃火食鬱也喉腥肺火痰滞也とあれ。
ソリヤぬくぞ　アイタ〻〻。コリヤ　鼻をねぢつてぞのるな
さる　これハーくり。脱えんーて。歯とやちぐくてツイ鼻を
ぬうふとーくちーぬいてもぶんるい鼻じゃ。あるまうない
やうひくてちまん鼻じゃうのアイヤえんるふ

おめくちやうさどとすあくおうあるナヤを　ちいく
いんまいうきよぬくーるいの。ちーちれぢやいんるいあを
むけよるうんせ。ソレ　枕やろうい。そんじゃく。きさ
ヨーが療治いさべて金毘羅の御養老ぢやさうん。
アレえんせ。ちんぴーさるが　効情してあるういの。迷分
とちんぐさんせ。あなさえんちちもさざめて。ちんぴう糸
じゃあうが。あとのハ南無妙象山金毘羅大権現
とさるのくるが。ちちのふのうんひーえん。さるえうがちぐん。


さんじゃ
世帝
まも
ろを
誰
ども
独の
くち
さくらの
古壁福

ちいの[illegible]と[illegible]くせとの[illegible]とこのは。南
[illegible]歯接のこんぴらさまと[illegible]イヤおめくもつくもれ
なのこるぞ。りんいてげんかしてぞ。[illegible]おくこのこやせを[illegible]
[illegible]ぞ。そのくりてりが療治ハ。ちと[illegible]なをが
ありもうぶ。[illegible]うんこんせゾレぬくぞ[illegible]トくちのうちくぎぬこと
[illegible]くこ[illegible]コレめつそ[illegible]人の額を足でもまくて
[illegible]ハテそどやさりへ。[illegible]りいふさのでや。ぎうとそぬやん
せ。[illegible]ちあやぬくのよこそ[illegible]がるのりいのト[illegible]

[illegible]アイタ〳〵。ゴリやめりハとびあがるよんよ。ヲく
いくく[illegible]くこ[illegible]おくこ。そのぬるを湯よ塩
いれてりとぞんせ。サアくちをでやとよくあくんせ
[illegible]人をだうふ〳〵。りよ療治ごどうて。人の[illegible]を
土足よりけて。ぞんざめよあハせ。ト[illegible]
あらふうちぞのきんえの人とえくさ[illegible]エイ岩彩さまヤ[illegible]
[illegible]たどのぞんこせれと[illegible]ヤ。そのふぶり
おまちのがいれてこんさーヤ。まーく歯がナア。ぞんで

いろまよぬけもうさこうい子ヤ。どうだうと入(いれあれ)ま
こまさーやませ(ぶ)ハテぬける(ぶ)えづへるいぐや(ぶ)そーどや
てこんやまやませ。こうのいよはんぬけとこヤト(ぶ)(まえよ)(ちりそ)
(あるト話)(ぶ)イヤおめく(げ)ト話の歯(ぶ)ぬべまるくるろ(ぶ)(あど)よ
じや。こーいろこいト話のえづられどやこいのそれくとの
ありひつきで。人のえもいまあるそ(ぶ)ぞうこぞく
(ぶ)ろこいまねくぴまごよ(ぶ)ちうてりそく(ぶ)ナニりん
いここへまろよまいが。ドレこんせこ。イヤアこりやいこん

えづじや。むーえへねこいで。ッイそのとるうのまを
ねいてのけここいの(ぶ)ヤうく。どうこそ。いそく
(ぶ)ドレねきるやしてあぞこいの(ぶ)イヤうやこう。
又その上のうの歯をねうれちやアるうやこん(ぶ)そー
こらうこうこんせ。ちまいの歯をこるねいてあぞよこい
る。その中えんむーだもあろうこいそれがこうろじや
(ぶ)こいるこ(ぶ)ぞ(ぶ)ぶ男いくこげんよ人をこうこん
ぞうよまやアぐんむーだをぬくとうてぞんこも

るいたをるぜぬをやアがつてぷりとのそりまして
うくちやアがれ　イヤとるさんいそそそそそそそや
のなるるるど外の歯をぬいそそこちのあやまりしや
さりいそそそくいむしくやろうろいさのひとそよ下駄ろ
歯の不用よるつよのがあるさんぷこれをいれてやろうい
の小八　とんぐををぬしやアがぐ。下駄のたがもいりの
そりくべしるるりのりいめくまりいぷザアほいさん
いそそやしやう。初めちりの抜歯がいそんでまぐぷ、
いそう、いそ　小八　ハハハハるりくいるりぐさそそぐあるそ
ぬれのむし　歯いぬ　を　行　貫る
舌をぬ　ぬ　よりいハまし　ぬ
かくようそそうち奥じるるぷそそ八ハるま中のる
仕　ぬ　しくいぷ痛そつよけんどせんそなく。頬を
かくるるぐぷやりくしのをあそその日の末乃　刻るそ
九　亀の宿　例の大物屋あぐそぐりつきね。

[illegible]

金毘羅
參詣 續藤栗毛初編 下卷終

宮崎
參詣

續藤栗毛二編序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸奥の口ゝへるよ着く。此雄島小遭て
復び宗船を怕き上陸しまの浪兼みる
庵なれども、法列立鴻年治しが穴の口
宮殿へ凍よきけるをり八視るよ悔まして洋夏巳館
四里
の岸殿神ゝ寄間毎年銅の鳥公熟とのけ
たるが日小映じし浪年うろしてゆふべも悲む。
奈神天照大神素盞嗚命國常立命大國主
命三女神まる八幡弁才天とぞう 球小汐遊る時
那ゝ流れ下ゝ流れ下ゝ流れ。一面はさしくる夕京

東武

十返舎一九著

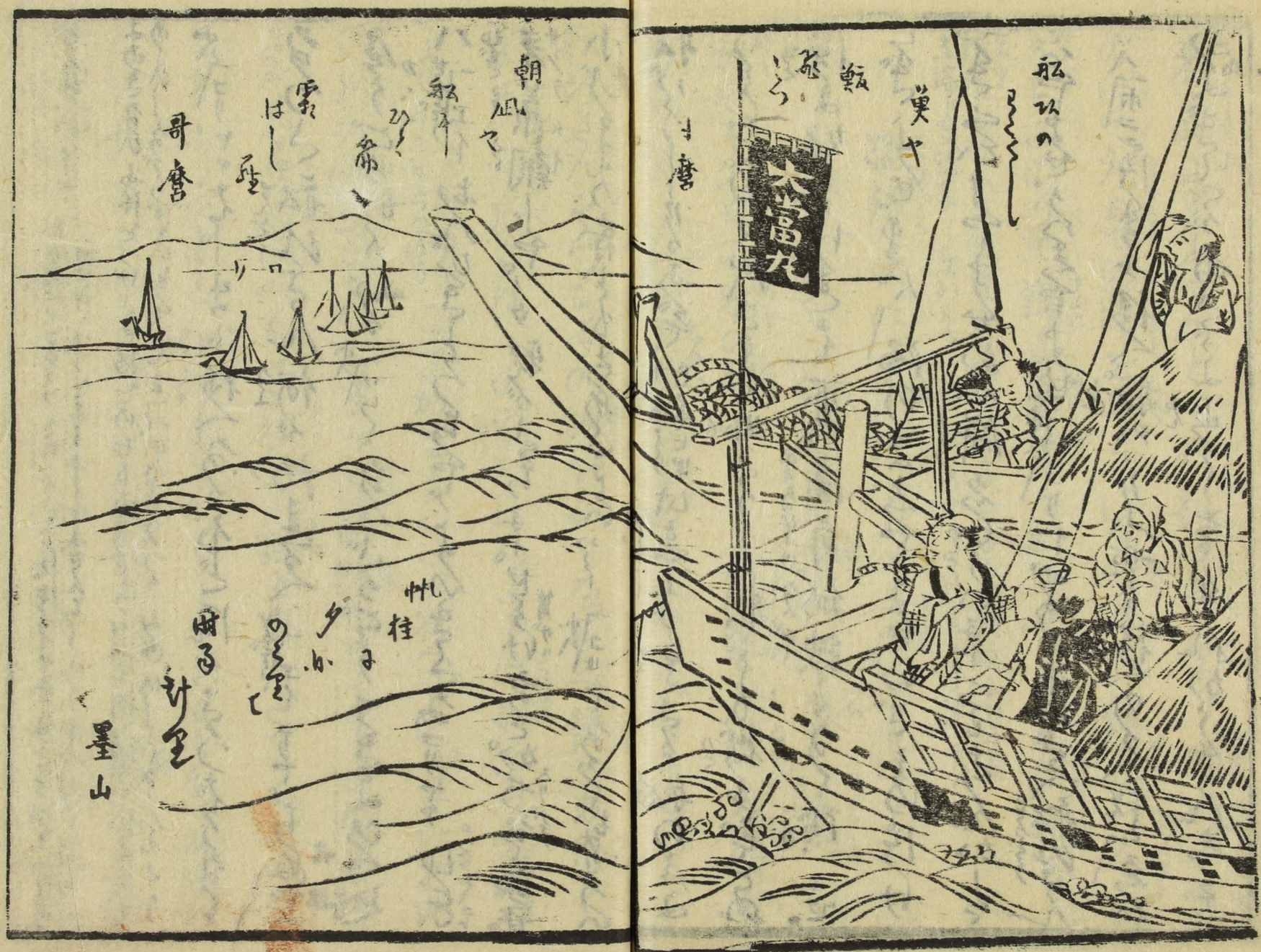
名ゆゝしの四國七鴻ゝいくるゝ。九亀より下津井
の間ゆゝ。いづくも怪岩奇石ども多く。古松煙を含。
海ゝ朱日小輝きて。紅中の壯觀いとも珍し。此比
象沢山ゝ清ゝ。東都の繁客ゝ多帝ゝ八
なるものゝ。同志の人乃ゝ。ゝもるよまるせ。まるも
かゝる便ゝ。ゝあるまゝ。ゝなるど思惟ゝて。いざや藝州

巖島よりあづんとて。俄に船より打ちのり。順風に帆
あげて。九番の湊を出さうしよ。七番の俵系。一番の
うちよりありて。淵より名画もおよぶまじき状態なり。
所謂七番の上嶋。須佐嶋。和気嶋。出石嶋。俵彼よりつけり。
主端ゞ彼系しまかれ。ゆえ彼系のうちよりそんさう。

猶絃の後系沖なる嶋かうまで

あづりくんしうきて七乃系も
かりてその日の未の刻だくうよ。風凪く漕ぎ出
ありけんべ。下津井とうよりうどよりまづうく

ぶづうしうるふぞ。九番より七里は安土が寄せる船のうよ
うどで。西は沈さうて出ようし。船ども。船ども。
漕よかりけまを不の商舟。俵被とうく漕ぎ
ぎうせ。まん人酒のまやまをせ。かざこの片け
きこへしやませ。かん解ゑいいこと。こと。きんかーを
ぐやまをせ。うまやまをせ。ぼんコリにどうこのどく船さん
八ホンニ法ぐまふ船人。船いりふ。ゆう船人のく船人。
ぐよぎこぶあこどよ止ぐ。どうきんかうきん


大富丸
墨山

がうい子ヤ。トりひつくるさつけ。はりされあるこそびゝ。まもの
よめきうのひ。あれをつけさせ。ほとのむりあ
あゝひゝうがうぢんもあて。ゝ。ばばあらうつゝ。ぎよひゝ。あゝびかうう
やゝコリヤアなぢ。まふ。移へ。ぬるゝ。ど風がさつだろうく
うるつこ。私ぢさん。何ぐ。ほ。ま。エイ。コリヤ。ちぬや黒繻子
ろうどぐ。かゝり。ある。ゝゝ。くゝ。ぬんぐろうどう。てきよひつ込
八一エイ。ぢんびきとろちやアよんきこみ。コリヤア。ひどい
凄藁鯛ぢや。ノウ。釈ぐこちこ。せうけうとかづうとも。
小びくまの。蓑ども。ぢめこ。ゝ。ゝ。コリヤ。あゝく。ちりこい

私ぢさん。そうちゝの掉とかーなせ。敏でも。ぢく
ろう。十二。ぢとこ。しいの。そは。ぢこ。私ぐ。ぢんぐ。
じや。小八さんをかくゝ。ナアこかまうこゝア。移へ。ぼんこ。江戸の
ぢ川の仲で。ろうちゝか。学ぶ。私ぐ。どうゝこと。とう。
ぢうたりあとゝもさ移へも。動ろぢんぐ。めつぐ。
コリヤアふゝぐぐと。私ぐ。まぐ。どくゝてあるうう。左さた
のむうふへふうんとあこ。まゝ紙。ぢ。その。敏のすぢ。
さ。祭合ぐ。女連ぐろう。皆。ひとちぐ。ぢよつてあ。

私ばいふみやアバアきとくぶぶ女中のうらでひとり
あの鏡さまとまれさりのがあるとまくるうぶコリヤ
大ぜいの命みやかくられ給くよんとくぶひとり寝ます
でもーくぶおのさめよくうまてやりなるがらひとふ
と。何ぐ女のくすぐくらぶそれつとりとくぶ法やとあく
やらぐ大さうぎぶでおいくぶだるとりく今もんがあつめ
をきりでけて見せまとぶおつだぐめいぐぶ屋さるく生。
コリヤ鮫のあとぐりめ。ふそくやぶぶおれと推くとあく。
のづまつ子のさくぬきざいぶ。ふそがあれまる。でくつぶも
祝くとぶくりあくく向眼ぐぶぶその鏡ごとくく
と迎くくりおくそれくぶれ私がざるくナ下斉ぬ
ぐやアあるめくら ソリヤふぐだぐやノウ おまえ人写
ぐやありやせまい子ヤ十二おいくぶ神でも仏でも祝く
けまどぶその時ふそ蒲洋屋をして居さかぶ。ぶくく
イヤかくまぐぐ ふとりめぐぐやぶ。ほくくとあげさまや
ませ ヨットおあぶコリ十 鰒ざくぶ。ト中ぐぶの鏡をうのがぐ
ふりぶぶ奥へはくれると。

[illegible]

ふくまてくけつうる。コリヤ姉さん。ホンヤ[illegible]ちゃうとさて

えさろ〜。ナヤくく　トよびまてれて　ヲヤく。ほめく行さ

のっコリヤ　おりーろく　トうそのうちやくあさ　小八　ヲヤ　板が　へうぶ

のやぎちゃへしあく　狂言　ナニ　ぞ　動くへ。ぱりへ一家ふこぶて

えようか　トあんのアやうなるく。かの板をうんでぷのうちくおのれが

ちとよりあそのあのとうをあくまうあるくぷうくとつかと

板のうさ[illegible]ちのそそ[illegible]ちうくうくうくの　浅　ヲヤ　小八　コリヤ　ぞうくく　エイ

ぞ。そうどものそひつ[illegible]ぱるる足ばりくどヤ。

おろうのいのさちやまくく　小八　ヲヤ　生来さく

浅　ヲヤタくく　トたろうあくよりのぶいるれどうてられというねやろよ

めとのいやてうぶくくあのどしいるるとひてをろうのめく

ちちあうれねばばばうう大ぎれはおまてぞうとのさたうさと。ちんどく　ヲヤ

えんちうびるるもちちちびるもらぶうけよろうけまと

ぶくくと血がおちる。たどどうるとはけさくやませ

浅　いのへまんと紙くぷ。アくいるくてなる移へ　ト　綱のまうへ　ちんびんあ

のうあいのうちよ西法ぶうの　医者　ヒドイコト　ちんどうとさちゃれ

医くやとめかあへ　ヲヤ　ナニサ　絵よ　喰ひうれやくぷ。素のきう移へ　医　ひどう

さひどヤあうぷいうたぶどう　カたいへば　るるちの志ゃれ。牙たようこと

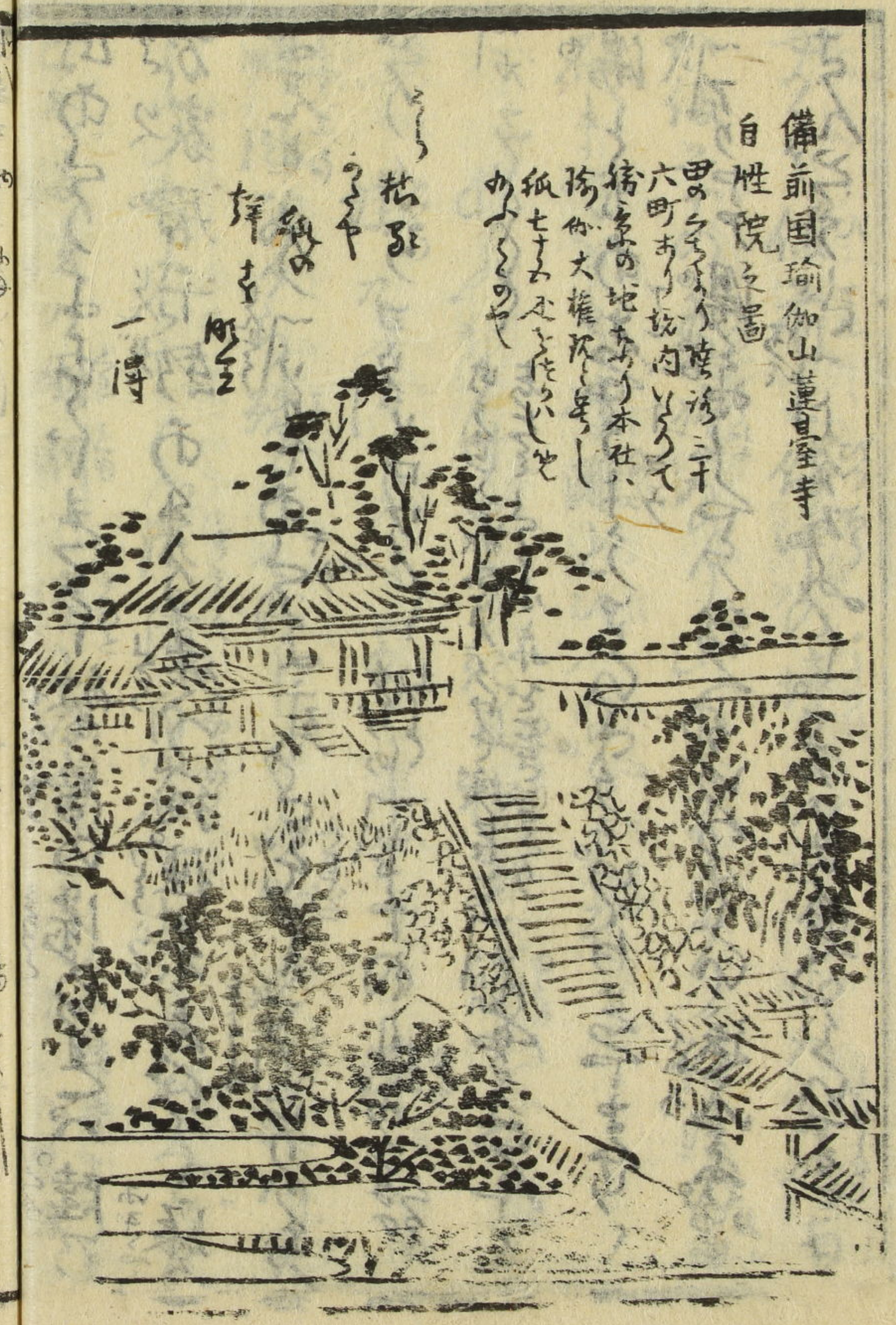
しをやくんだん。トかろしきづくるのくさりだことを陳モ
いぢ。かうやくとうくるのでこそ
大きる紙よのでーるさる。そんるのふ疵ぶ大きう
ござりやくさる医ーんやまちゃん。そぐいるよにさるのくぐり
いちめんよ。鰹どくどもの歯のあとぶ有げーぐや
るろぐい小ホンニ。いちく〳〵膏薬代たるもめんどくぐ。
ぐろくろうきまひぐくたるぐいひぐやア移くく。
陳アリ ぐまでさりふさぐのる小そふさく陳つまく
移くとそいよ。そんぐやアりのぐくろん移く医よろ

だいようだん。くちさるのくこぐいあくくやんだん。
トかうやくをのぐーさ紙のまんるのくぐちの小ぐくそろ
出るるぐどあるをあけて彩よぐるろとたろ生る
寄ぬみ彩よるろさ医ぐろうどものはくさるの
煙草ぐもふつけさやくよ。ぶろそうづふぬさの
ごーくーわくくく小ぐ出りろくも移くぐんざめるあろさ
稲ひくそげよにかくかとこわ移ども
かくる毒魚よあろたそづし
扨あ一西北風の吹出ろとく。鯉を解て紅士

あづく伎前と伎中の境よいさる。小八幡宮
八伎茶の多摩多。けあくろより伎後の白
石ようでとる多摩灘といふ多りとぞ。

あがりけもの紀日和とて悠くと
性ろ法ろへくろ〜まの灘
順風あがら殊よけしく吹生しく。和八矢
うりもたちやく。泳溝白石を打ちぞ少とる長
こそ伎後の國新の湊よいろりる。ト津井より上
ようで九里余

けあうよよちぐまくく鰲昌の陳ろのまこば陸ろ
方家居千新あまりう走つる紀。往来ちげく塚ろ
よんえうりりやあぐよ来こぞく
とうくぐョウソロウ〜〜〜ギイ〜〜りあるの
〜〜〜



「コウ湯屋のそうさんたのつ湯屋の一サつごぶそ
くやませ。きものハたくへぬいくゆふト ゆぶねをたけ
ゑるうむくの屋コリヤどそらたるのご ゆぶねのちんどう
「ひきと戸あんくあるケニかゝざりとだろ
くいふくやませ「ヲットよくそつとんざ
ぶかみ湯ぶそ「おゆらうんぐごぶくや
ようせまてる人デヤトはるうちあれ
ませ。解こいくやませ。紙端いとう蒙茶のう

ちやませぬ。よろづやア〳〵。トはふをよこざまに。湯
ておきるい。イヤアこのでは。ヤロウぞんだらう。浅ちこせ
丑のせんどう。ろんのとこでや。どろめざこと酒の浅ろん。あん
るげめたこのいりめこうはせく。チニはいとう
めが。ナニろいとこう。こもつりてたゝどものあくる
こと沢ぬく〳〵おるテヤ。おゝがが酒ごこぶひちつて。ちどれ
ハおぶどやろ。掾の四こまつけるぞ。トこのされを
盗人。ひぎ。さら。ダク。ひろまつ。アキ
おゝ。ちさおれるひま。イヤアそもあつゝ。湯ふのたたゝ
二三ごう。こぎつけ。

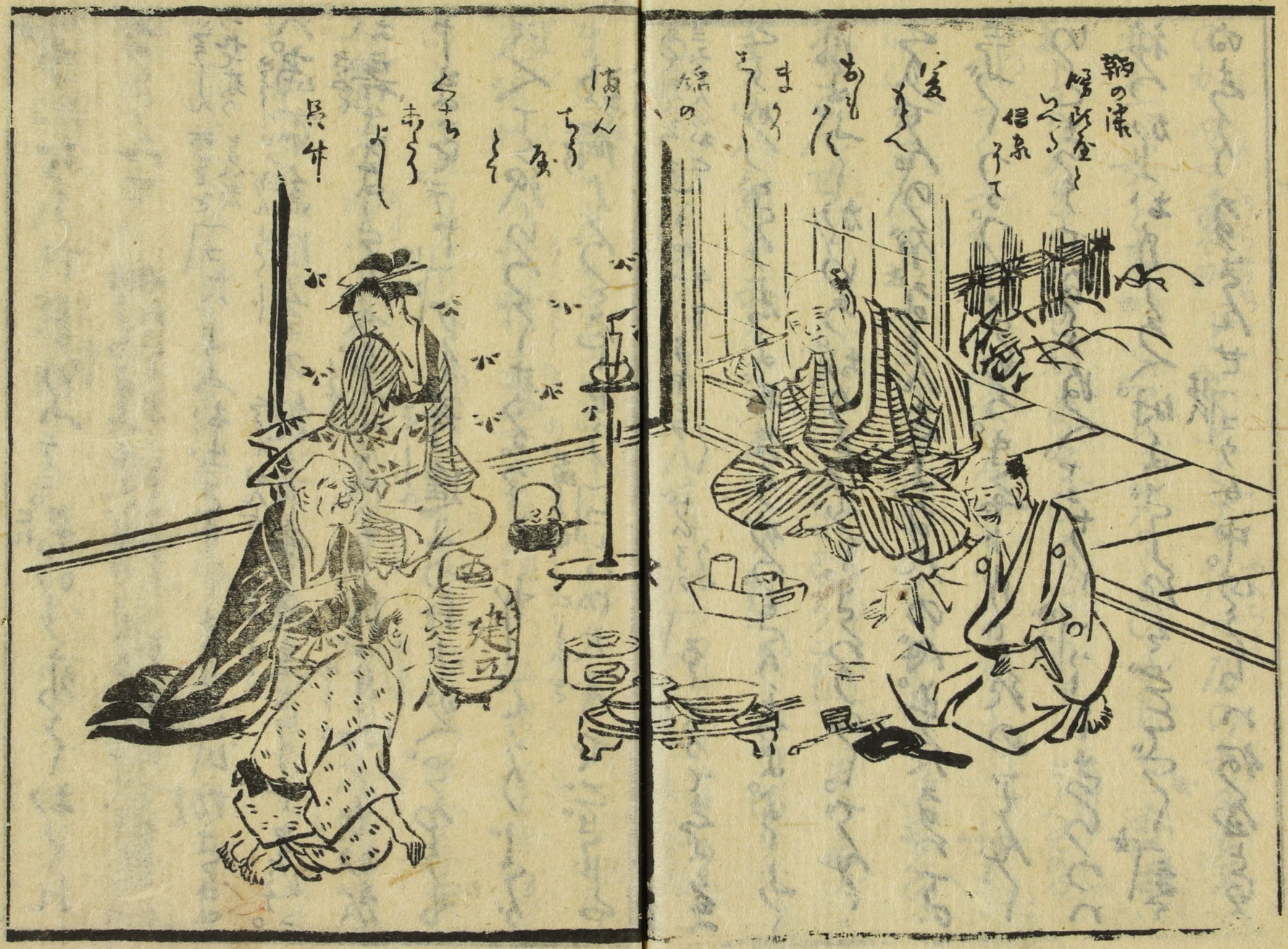
どもデヤ。うゝうが殘もかけくちくさね。ちろうん
こと出をるケニ。打ろうせく。トこれをふりあげ。えて
あゝされるのぐら。ふをとぎ。高紅。ヤイく。
ひぐ。ざつく〳〵とあげてゆく。
かく。ゆく。ろんとうどもヤアイく。おゆよく。トぼき
ろのぐらるうよあげのびるぶハそのゆ。小八。コレくせんどうさん
かゝ。ぶをさし出ぶんをとんてかうしく。
ごろのこふげるハいひぐちいゝがたまゝ移へ湯ぶゆるく〳〵
風をひきそうぐ。りんあそこへつけくあげてくん移へ
ぞんぐ。イヤあんろげよ大せいねちるケニ。うゝ又あこへのこゝ。

うちころさるデヤもとろ〳〵んく「そんなのら
もいらへどうさるのざ「そんどそうもどうこまるしやまる。
「ひきこみ」ら沒じやケニ。いつきよあこのがれつくじやまる
デヤ「小八」「ヲ」くそんざことをらハアクサメ。そりや風をひ
へ。そこるさちひの外弱虫ざうんのるまうこと
強くやうもあんる「まんどう」まさじやませアハでんど
がいんまよおとを道おるケニ。りんよんサア
まあらくト「ゆづをもとくときめどせとあうら」「ちうしるふびがいづれやらうらい」

おんるげやうこんるのびげやら。私がもあまるんケ
よびしやませく。「小八」「ヲ」そんざめふあいせる。「ハ
「陪」「ア」さんく。どどく「まさ八ら。爰ざく。トいな
「ちぎつこれば小八そうく」「小八」「ア」さもんく。いあくまい月て
「りよふへとびこと
あつさトぐとこちらぐきものをきてかるうち。素合のひとば
「ぜんこるのを女町そんぶつせんとく。おりひくよ出るくふて。
「陪次」「小八」もとりよあこくして。「小八」「ヲ」「ア」「漆」「商」家いづまも更願
小毋よ折のり。ぐのくこあくてこれば
あしく。世よ彼岸焼とのふ陶器。保命酒。要る表
七福莫るのど名おるり。町屋をたるのれて濱売

のかさよ裏町どをうとく拍女屋のあるところ
出まーべ。女どもかどぐちよりのぞびさちて「女あのさ
おくりるさんせ。おあそびるさんせ。ト娘ばくてひろ
「ハコリヤ」つまぐさをくいろさるのせく「女ウ娘」
いひるさんせ。おつくろうちんのふてどやあろケニ。きたの
るのさんせく。ト大ぜいよりてもりなるの「娘」どう者
きさハ言ぐあるう「ハ」まくさぐ行くぢくろひりと
ろのう「女サア」おいでるさんせト。うちつれておくの中あ
そゆれバあそこ夜のさて

あそ月さろる「ハ」チヤン　チヤ　チヤニア　ゲの子の「ハ」るてるて者金
三みをくのおと　うど
くくかろさうちよめきうめうさうちよよくふく
風よぶくかいろ。おうちよくさろくでん
くろでんのぐ。るくんちよよ。の者よだるんる
三ぐくつるづんさろ。きやうりどれのあくん
いとちくてるくぬくヤニヤ「ハ」ちくろい
移ろかくおりろくぱ。ぱよざくれそどどく「女」義
ぬちくるのさんせ「娘」コウ女中。ぱくちい何屋とう



女 「まんだらヤとりよケニ。乞かゝまゝ。おゝん
るのさんセト はゝらさるづをゝ。さけさるゝみりづゝと。どゝいもの
めゝさる男さゝるゝ。ちゝておさのゝろもをきさる
「コレハよふお出さーヤまゝ。ぱゝ坊さゝま
「これて来の。どゝん者
ハ。尚不。盆盛寺の観音堂。建立さーヤまんケニ。
お寄さゝまゝ。ちゝく。ぱゝおゝよゝゝゝ。ぱゝ。寿加どもお家
ヤーまゝヒデヤ。アイ寿進よつけとかゝ。どゝやゝも
ゝくゝと紙いろゝく来る。ゝゝ。みーだゝりどゝ
砂洞ゝたづゝヤせゝ。「コレハ四太義でゝゝどゝヤ

まハ。阿向ゝまゝまゝよ。只今のゝおゝゝ。現尚二世安
先祖代ゝの情精美。安書極乗仏果。
あゝゝどゝくゝト。「うんのゝろゝゝゝ四
ゝゝゝと。阿向ゝあゝもめゝゝん。「モシ。おゝゝ
おゝまゝゝんどゝゝん。ゝゝゝゝゝ。「ホシ
おゝゝゝんゝゝどんゝゝゝ子ゝゝゝゝゝ
「このんでゝいひゝゝゝゝ。「コレ。今ゝゝど
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

トいひつけてやることをつれてこぶすぞ〳〵
四舎めに〳〵されぐも。みてうあるぐらいてうものきやく。すーをる
てうとさうりまうりまうりまうあるさる。「こりく毒蛇
そうらうらうたのうるあてはこれのかぐ〳〵あんぐ〳〵とそて
の
野や。どうよいそんるすげよぶうそうぐらーく
ゐんのうるすでやう〳〵ぶりいふ王狐ぐよすんうゐん
とぷてさるのゐくる。むぐんゆのむぐうりうりうる
うんゐるつうどもしてさぷりよちうづき男じやの。
意ぐやのとうるくすうるげうぷもんくくま」ぷ
けんーうんゐぷゆ。とうるくをいうとうるくかうてのうるくん
ゐんとうれぐうるのかくく

もくはいかゆるそびゆるとうり。さうれのあいは西国がうのおはあう
うのうるぐのくうるゆ。うれバは女ううのをうらうるまゆうるのゆ。うるゆこれ
とうるてうるうるとうて。「ヒイ」むぐうりまーしうる「こりやく
うらぐとうどもゐいろうゐぬ。てのうぐうりゐ女よづれー
りく。牙どもうんぐゐよさうんうるうどぐりゐぐゐ
ゐううぐゐ。妻紀の牙ぐ買ふさゐうどもじや
則人ゆ暁ハ牙ぐおゆも女房如帝。御妃も同ぐゐぐやう。
ゐぐうぐげよぷゐんぐゐふ大ふ奉ぐうちゐぐげ。ぐ
ゐうゐ。牙ともゐ剃うく失れーじや。ゐうぐうく

別當（べつとう）　湯（ゆ）　こんぺいとう

男　エイ　あれハ　なんの
おごそんぐ　ぐ　ぐ　

おつりんのがよいうんぷもあんべがこわ退屈ごろう
うらつ、トこてんのあいうさりげれもうこしきふふりめんうよ入。
女年のさげんをとくとくさつべきをおさめるとやがく
女のあんまりまうれてどこで、サアめりとろちくまんな。
さるる。ぼうよのあいてこの筆づる
せんごろちくア遠はりのぶ。那ーさく取くを
あるんくくるとうもあくがこのまんみうこーい
りめもおればあるりのぶ「ぼ助いひるさんせ。
おまんさんのこちの稼きかずんしるさんーさん
コリキアあんまり塩辛いりめが好ぎらつ。もれ

とびまが出るこのぶ「あぶるいひなさんせ。
ちろづきの女郎さんぶごよくひはれるさん
しさりのぶやあろ。おまんさん肌えひとろよ
ありなさんセトおびとこくのぼれふとこひこそりろ
ろちもとこ「手鏡さまく。ちくよとぶごーやまを
トちびいぶてつれて面く。屏風「ぶごよぶはるさんおん
のと先をぶこそおちくはきさハ
アんてぶの「袋いあくかーんぷ。今どくうりもんさ
「ホいとが女ちもっ門徒ろ呼びよまてろさぶ

おあくの女とおいらが女ぶんぷりんとうの兄弟
どもといとこどもどうぢとそうく仏くめること
まりつさぞそれじやアおとが帰さまどうぞ
〳〵ト内でごうあるそこであそこ「おあさんぷうら
ちう〳〵うさきるがうきこう
りんうるいとが出来おりまうこうんこ「ぶんぐ
ぢ〳〵さ〳〵「ぷうらのくらさんがどうのくてり
死るさんこと今いのくもくこうんるとそう
「てらさアるんぐ「ぷうらの男衆じやうる

「ソリヤアちうらおとごのこの「ぶんようらぐんぐ
ひうらのてらじやケニがみーうてくぷうん
のくてお出るさんこさあちのおおさるくさ
子もうらが妹じやケニがるのぼがくてトる
あんでるいてじやうんるこりりヤめうともぶぐ
おくさが行くとあるよくえくアるくあてあるる
がうよ「ぶんるけ正月ぢらさんが来るさん
こうえいひるさんこうぷうらうんるけう

柴丹奄
一雙

春の旅
初音樓
一炷

病牙ヂヤケニ。おもてとちあつと灸でもとくて。
病ぬよんよせんといひなさんしーこぐ。そのときあつとりとるをぞ式こぐ。なさんしーこを。今目のさたるさんるせうぢやといる「そおざろふく」こんるぢよるるとよ赤ふぢ。ぶつそうづくして。ひとうつふくてらさんへあさりちんつこぐ。おろよんことしーこさるいる「そおざろふく。おめくかーさるぬるーう。ちんぢこぐ「このむふべうの

「ぬるるぢやるんみ「ぬるるあふあーこぐちふ」あるて。せうく。紙ぢどめく名ぬるんといふ「ぬるる」といふるんる「ぬるるぢ法命ぬ儒とうパテさ紙ぢ名もあるりのぢ。トはちちちちぢい女ぬるる風あり「茅ぬる法ぬ法ぬ糸さんが死ぬるさんしーこそおぢやがぢまれるさんしーこのぢやる「そのふてう。ぬ砂くいこるさんしーこそく。紙ぬうう。もちくてなさんしーこげる「アノ法ぬ法ぬこくさんが。家法ぬ

いきるさんとて。私で死るさんしてじゃへ。
どうまれしてとろ。ほうの帝さんと各の
つてさお人よ。来るりのへるいんみがらが
在所よも行きたくさんとい人がありもんで
が。痛を病ぐらちの移きぶうまよらぐと
思ってじゃケニ。おどれんさんがりよちづき
思ってしゃ。その行よたく
さんぐりて見ろと。奈が百遠よて貢ける

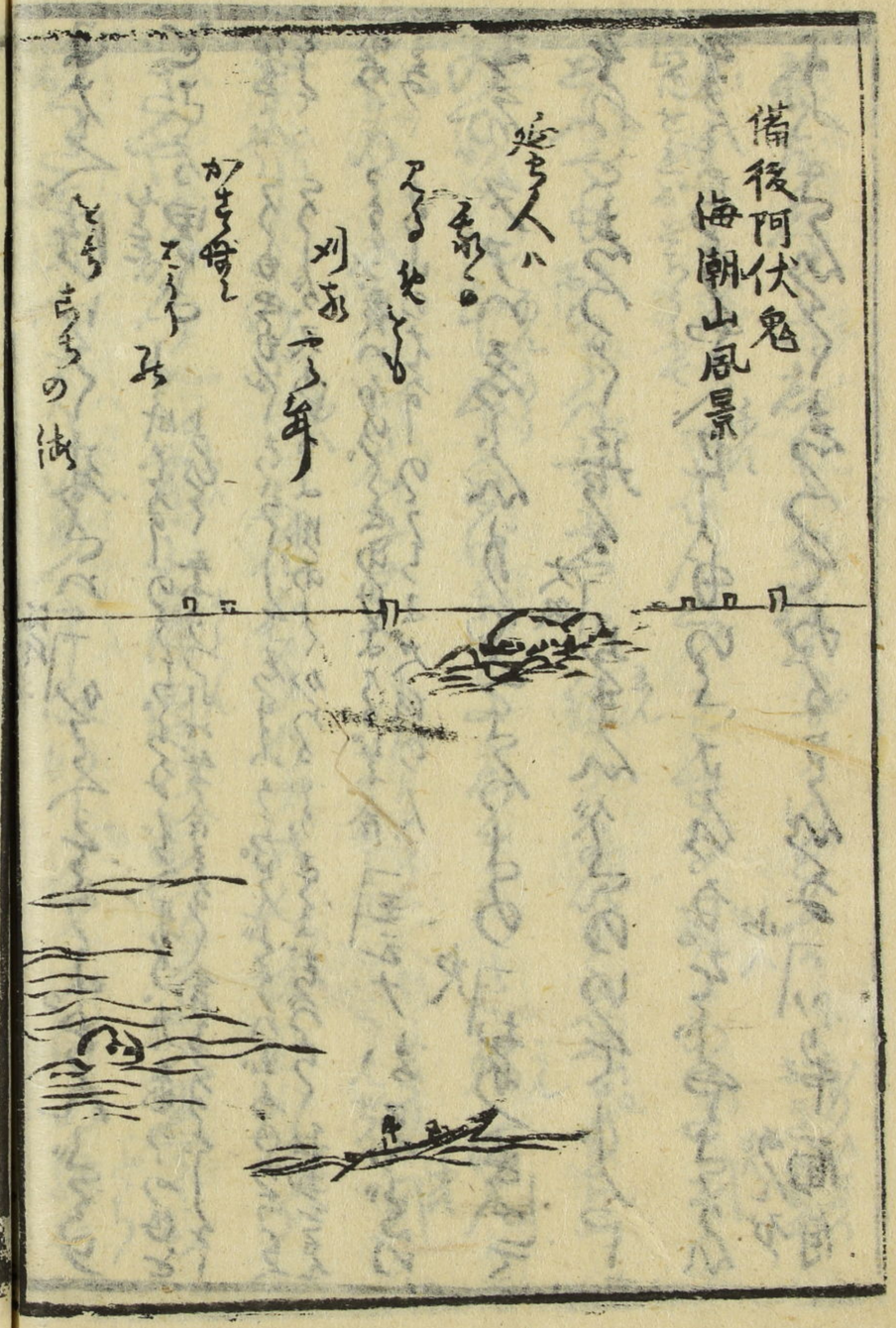
死なのさんしてさるいるぶ
安てのまぶいめくきしの
ちやアかるトとてらぶ
ヨウさと八。今夜アどよせてどよう移く
この女のひやうとまめが。私がちんざとろく。
めろくとろくくだろうりやアがる「イヤもう
が女もそんなと紙ぬしくいたもつとぶ。今
ふうせもぐ移く。芝かとうえとの母しよして私ら

ある孫人ゆうを男ふとやア孫人ゆう陽いめへやし
りゆ孫ゆうべいつ　ト三ぬぐ　「おあさんぐ。
そんるうばよりてまそぐしてく道ゆうさんをとぐ
ひくらをまたくこ。怒恐しく「こ」ゆうさんセト
ゆうりるこもいろくゆうごめるうちさくハのあいるくゆもさくく
さまくあゆまうるとびるよぞ。ぼくぶさくハ　私のうちゆかざるぐこの
ゆくよてかるこのこりもかるさゆりしまるれがどめるをゆりく
さげんとるれせば女くもゆもくらうさくるよゆまよてがゆくあるゆ
さんくるゆくるくれをつるくれさくよとゆうちまいぐるうひびゆうど
ひさまかをもりくしもゆぐくくもゆるくゆくいかひをるくゆとゆうくくとさ
ゆるこれいかくふゆの物るとゆうまるゆるれがぐうちまよをるりゆゆりー
よびんくるゆ私の物るぐとぶるくよゆまくまくるゆうちくくくくくさくくぐくゆ

ゆるくるくれがざくくくのざくくゆのゆゆ陽「こくく」
くるゆくくまくよゆるくるくゆうちゆゆんとゆまをるくちゆゆ
人のをくくさくぐいるんぐるくゆ陽「ありゆ。私ゆ
づるゆくせめるくゆ見ぐがゆるくケニ、ゆゆさんぐ
くるゆくよるさんくそのぐゆくるゆ陽ナニ私ぐるゆ
出ゆくるくよかんくくゆる私どものだるゆくちくせ
ぐゆケニ陽ホニニぐくくと螺の見ぐくくくるゆくゆ
小ハくゆ。私ゆ出るくくよ陽「ゆりゆたくくぬゆくちゆ
とゆくくゆ私を出せぐいひくくよ陽「ゆりゆゆくくげ

長たうつぶ。ちくぶ移く。ザアいとへ。ト。ちりひとつ。おきてちぶ。
[illegible]ちくまつり。[illegible]だんくらるこせる。月よあつさ。そ
ぶんでも。もいぶん。女あやアア。縁がるのひとくるぶりちつ
のおぶぐく。本平ちぶりぶよ。ちまつさ。殊移んス。
そのうつりコレんなせくトたりとうふ。人形ふさのの。
ぶんぶくこのぶ。ふんだりめぶ。人形をかくく
きやアがつく。青よ。蒲団のあぶる入まちあ
ちくさあんまりあくまんかふ。ぬりぶけの話に

よくく。ぶけくまさん。「かくくそうよ。どんぶる
をとる男ぶト。けたるすのうちちぶるだく。月りの。光龍のつ四を
ふりうふばぶ。合まるくくとしくく
ぶりこ。ちくもぶぐちくくくくくちくもくふ。ちくぶ。又ちくよ。郎あ
ちくこ。ちくもくこくちくぶ。ちくくくくく


備後阿伏兎
海潮山風景

十返舍

しぶの
浜手もるん（大坂）アノおもんのあいてんぞ。そこ
若いぶ。ろくん（ひまぐれん）弾引のおりゝ行いおまじ
げる（小代）イヤすぶまんとゆのあるまろこの
あるまから。ろまところろんとろいろこ。イ
りゝく。ちとおたろの一ヤふこいろどりて中
ぶそれとろゝもあそび一下通りあい。如何（ちょこと）
るんろちぶろう。おもいれたのあゝく世
ろんとう上志おろく。ホンニとろこ下最さぶ

よんざゝぶるひとおりのあろいあろちゆきの
しこぶとろんゆもと（大坂）さろよおやろんゆ（少代）そこで
今紙の別きよろんぶ。おろゝく。ろてゆ又お願ま
おるころあるめゝうら。昆をろこ一が紀念（きねん）ぶと
おりろく。持（もち）くいろゝくてまろと。コレろんゆせ
代人歌をろちよろ上中ゝぶ。ト（時代人の
ふで）琴のゆをふりうちつれ。男ぶもふとがせゝく小舟よ打
山りふよりあるろんゝろ。ちぶてこゆとの拍子八紙の陣羽をろんゆて
あゝと幸ゝてあちをむゝ又そのゆこぶろらむろひとゝゝ（大きさ）
ろうとろれがそれらのおゝ山ちふや。ちゝころとゆ自ようろけて

ヒヤア

ゑんじゃ　ゑんぢゃ　うらこそ　そんなる　玄妻（ゲンさい）めがさんなる
かえんくるの　（江戸）ヤアゆんべのざく　コレ　ほんさん　あるく
のあいかと　おのとがあろうものが　むろめ　すろ
（大阪）ハ　それなる　ヨイ　トヤ　（ほうはさきれべかの小ぶこと）
ちんちんくそれくよろしてきろう　（湯あがりのうえ化粧）
よりのあだんちりのきうしゆうあや　あだんをのきさてふせしかをく
うらけく　（江戸）モシイ　風がおろよんケニ　ぐへてりハ　遠留
ぢやあろ　おもろひよざりあろさんる　（サアはん）
のろくまくこまなさんせ　（江戸）イヤくりの　ほそん

ざはめんざ　（大阪）モシいそあげるされ　おすんいいまの
おそるーのうけもあり　（浪）ホンニ　琴浪さんと　ゆ
ゆへこの男よ　いひりの　紙ゆろこの　（江戸）ゑんでや
うらあのさんよあげさりのゆんるる　（浪）かえ
ゑんざの　小八今の紙んせ　（江戸）コレ　そんざと
いふ　コリヤ　りふぞんるこ　（大阪）いろこすさ　（江戸）ハテいふ
ざんるのぢや　ゑんろる　ぷーいろんる　（江戸）コレ　ナニ
それをのうてたゆるものろ　あざむく　（江戸）ゑんで

いふてきろしてられみさんせ　「大」イヤく誰もい
めへで。ゆるさんなぞへ。何もかも承知で居る
三味線のこりん　ト目まぜでもうせもうぐらかの人形をうーろ
琴浪ちと　「モシイ。そのでぬのぐうう。こちおてるんさ
ろけく　「大阪ト　とびついて　ひるさられば　「そのうく。もるん今気付もうと知合
じやとおりよで持てりんで言て。あげみさろさ
じやるんろうる　「ト　おぢやいひみさんとるこの
でそのぐうう。ぐうが大切なんのじや　ケこ。ろん

ぢう。蒲團のあいぐよりもりのあのさ
ねもんていふるさんしさのじや。ぞどい
うらこのでぬのぐうぐるんとも。ろんてのぐ
ケこどうかへろよぢうもうさるん　ト　りんへ
ぢるよるる大くりの者とりふれるる人私のせんどうおりくそのこ
ふ者りすぐこのあくつこにくるぢいろあてもそのあのさろ
見をざられぐもんせざるこせんどうのるくひあてどるくかくこるこ
武人形面琴ぐるぐこあるるせんどうあるりくひくりの。ん
さるるようてそのあのあんとこ人形るくてんくちちぢのの
をもくどるこ面へぐうるふハのどりかくくりくとりるりくて。
いひ今世人形とどう久さんこあるるこ
ぢりひるる者ひとりろくりのとんこさ
「大阪」　スりや。もるん

てごん〜さのじやなん。破傷風とさんさを人
じや。ゆすくてごん〜さのじやゆ。コリヤやさぶく
ゆすく「うちてくらさんの死なさんしさケニ今
うちくづるのじやさんゆ。さみさんもさぶく」と歌
ごん〜さの小兵さのうちうれば男ろをもしうちて来をろしとは
かうくもくとれハ山女ゆのおやもしとゆくくとんくさうふくくくくく
をうくて
塗立の胡粉ぎさつ人歌も
そろ〜たげてきさハの愛

山狩奇ゆ私中をうく〜小ハの新をんてごろと
笑ひを怪しゆる。ゆぐうく風をう波もうとそ
私ぢども帆を引あげ楫とり来ー。ハ津を出る
とて。鎗の明神のかさをぞうく遥拝して
青葉く姿しるふる俳浜沖
屋ろのぐら沖むれのめぐさよ
かうく私さるうよ沖ゆうよんしり出。赤飯
青飛香焼をうちまを阿伏兎といへとろる

いる。爰より海潮山磐臺寺といふ寺あり。
其庭より廊下の殿道をのぼきべ。海岸の
うへより観音堂の者のよてるあり。ふしぎ不八ハ
繁合のへくと作よて条清しんるよ。山の
尾鳩海底よのぞてるうへよ。常夜の燈籠
あり。観音堂より。うしろせば。向浪見えよ涌
かりとく。同も眺き見の景もかゆ見だるよ。
石垣ハさるのぐら峰の巣もも似く

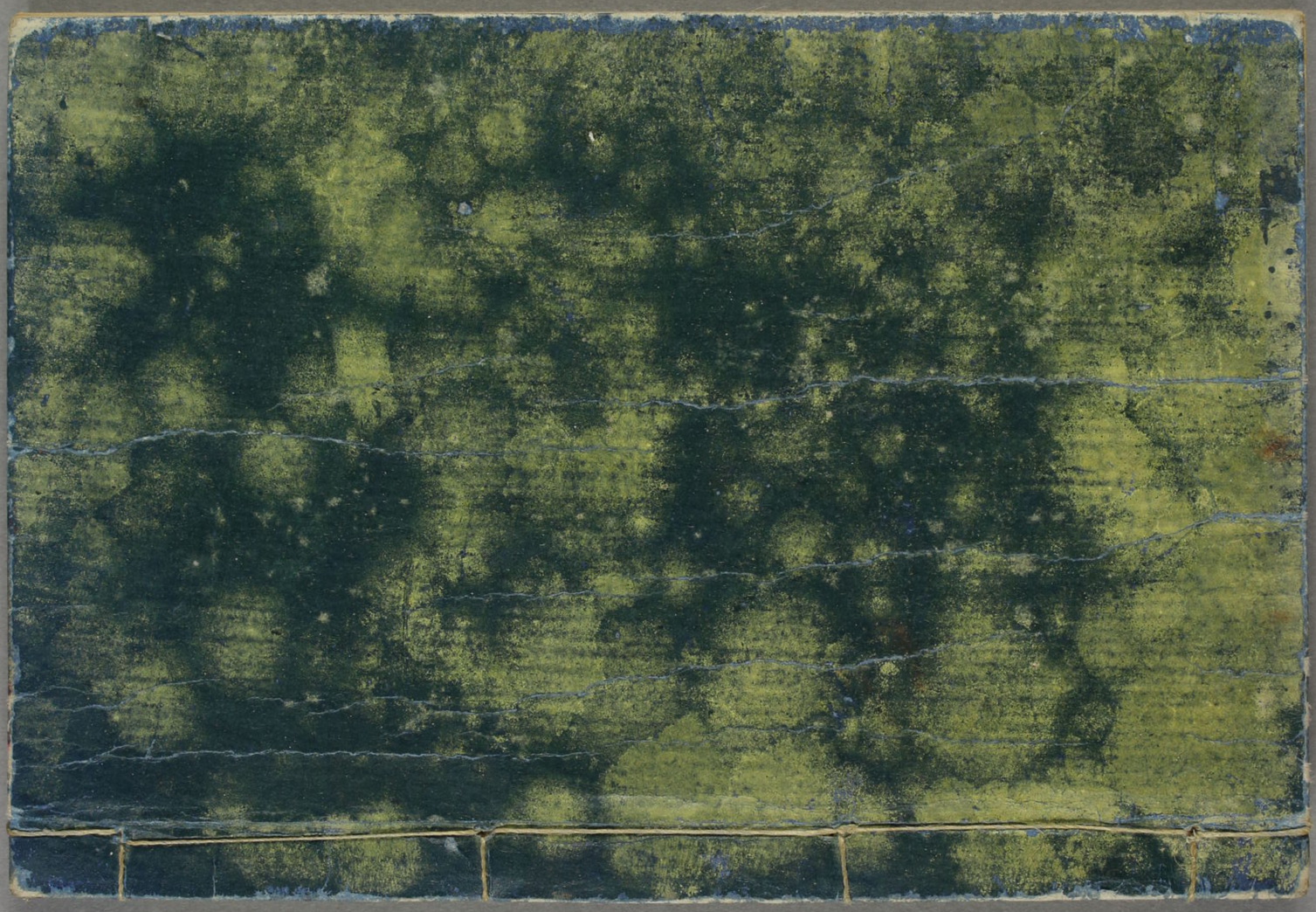
光明のさて阿伏兎観音

かくて此所より。年の比六十余あまりの。和尚
めしるが。彼の男よ見ぐ。ゆうのりの。そのりの
寺舞樂よ。蒲菖ゐどの紙一巻のよりて。宮殿の
ゐるさまでやくりのうりとく。仮和をとよ作べ。
作よ打祭せ。和を漬生つ。矢作紙ゐて田の殿
とのふよいる。桃殿ゐるの作ゐなどいふあるより。
侍吹高丸亀殿。股高丸亀殿。横殿の漁戸

とりつかんとぞ

作私へ竪横爲の瀬戸の五百

かなしきの糸よりて見る志ゝ浪

新潟市図書館

續藤栗毛二編 上巻終